

「大学評価の有効性に関する調査」第3期(2018～2024年度)

報告書

公益財団法人 大学基準協会

2025年10月

<目 次>

第1章 「大学評価の有効性に関する調査」について

1 調査の概要

- (1) 調査の目的、本報告書について..... 1
- (2) 調査の方法..... 1

2 大学評価の概要

- (1) 評価プロセス..... 2
- (2) 評価体制 4
- (3) 評価対象大学と評価結果..... 5
 - 1) 2018年度 5
 - 2) 2019年度 5
 - 3) 2020年度 6
 - 4) 2021年度 6
 - 5) 2022年度 7
 - 6) 2023年度 8
 - 7) 2024年度 9
- (4) 大学評価結果に見る内部質保証、学習成果の把握・評価..... 11

第2章 「大学評価の有効性に関する調査」の結果について

1 各アンケート項目に対する回答..... 15

- (1) 大学評価の実施プロセス、体制等..... 15
 - 1) 事前準備..... 15
 - 2) 実地調査..... 23
 - 3) 意見申立制度..... 28
 - 4) 異議申立制度..... 30
 - 5) 大学評価結果..... 32
 - 6) 全般的事項..... 34
- (2) 大学評価前の自己点検・評価による効果..... 37

2 アンケートにおける自由記述まとめ..... 44

3 まとめ

- (1) 内部質保証の促進への寄与..... 56
- (2) 効果的・効率的な評価に関わる課題..... 57
- (3) 評価者の資質向上..... 57

（４）第三者評価としての機能の充実.....	58
最後に	59

資料編

資料 1：「大学評価の有効性に関する調査」調査要項（2025 年度）	61
資料 2：「大学評価の有効性に関する調査」調査項目（2025 年度）	62

第1章 「大学評価の有効性に関する調査」について

1 調査の概要

(1) 調査の目的、本報告書について

本協会は、1947年の創立以来、本協会の目的である「会員の自主的努力と相互援助によってわが国における大学の質的向上を図るとともに大学教育の国際的協力に貢献すること」に基づき、大学のあるべき姿を示した大学基準の設定及びこれを用いた評価活動を通じて、わが国の大学の外部質保証に取り組んできた。これを踏まえ、本協会が実施する大学評価の目的として、以下の3つを掲げている。

<大学評価の目的>

- ①本協会が定める大学基準に基づき大学の諸側面を包括的に評価することを通じて、大学の教育研究活動の質を社会に対し保証すること。
- ②大学評価結果の提示、評価を通じて見出された改善事項（「改善課題」及び「是正勧告」）に関する報告書（「改善報告書」）の検討とその結果の提示といった一連のプロセスを通じて、大学の改善・向上を継続的に支援すること。
- ③評価を通じて大学の社会的存在理由を明らかにすることに貢献し、大学が社会に対して説明責任を果たしていくことを支援すること。

本協会では、こうした目的に基づき実施する大学評価が大学による質保証の取り組みを支援することができたのか、その有効性を検証すべく、毎年、前年度に大学評価を受けた大学に対するアンケート調査「大学評価の有効性に関する調査」（以下「有効性調査」という。）を行ってきた。そのうえで、各年度のアンケート調査の結果を踏まえて、次年度の大学評価の方法等の改善を図るとともに、次期の大学評価の企画に活用してきた。

本報告書では、2018年度～2024年度の第3期に実施した有効性調査の結果を総合し、第3期のまとめを行う。特に、第3期では、「内部質保証の有効性・機能性に着目した評価」を展開したことから、第3期の大学基準に定める基準2「内部質保証」及び基準4「教育課程・学習成果」（学習成果の把握・評価と教育改善への活用）の点に焦点を当てて、大学評価の有効性を分析することとする。

(2) 調査の方法

上記の調査目的に照らし、2018年度～2024年度に本協会の大学評価を受けた大学を対象に、各年度に本協会より当該大学へ評価結果を通知した後、郵送にて有効性調査への協力を依頼した。具体的には、回答様式（設問及び回答欄）を本協会ウェブサイトからダウンロードして、回答を記入のうえ、本協会宛にメールに添付して回答するよう、各大学に依頼した。

各年度の調査対象大学数及び回答数・回答率、調査実施期間は、以下のとおり。

●調査対象大学数

2018～2024年度に本協会の大学評価を受けた275大学

【各年度の内訳】

項目 \ 年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
評価を受けた大学数	27	30	39	49	50	43	37
回答した大学数	26	30	39	45	48	43	37
回答率	96.3%	100.0%	100.0%	91.8%	96.0%	100.0%	100.0%

●調査実施期間

	大学評価を受けた年度	大学数	調査実施期間（アンケート開始日～終了日）
①	2018年度	計27大学	2019年3月16日～5月20日
②	2019年度	計30大学	2020年3月25日～5月17日
③	2020年度	計39大学	2021年3月24日～5月17日
④	2021年度	計49大学	2022年3月31日～5月16日
⑤	2022年度	計50大学	2023年3月31日～6月7日
⑥	2023年度	計43大学	2024年4月10日～5月31日
⑦	2024年度	計37大学	2025年3月26日～5月30日

2. 大学評価の概要

有効性調査の結果を分析するにあたり、まず第3期（2018年度～2024年度）に本協会が実施した大学評価の概要（評価プロセスや評価体制）、および各年度の評価結果について説明する。とりわけ、第3期において重点を置いてきた「内部質保証」及び「学習成果の把握・評価」に焦点を当て、第3期7年間の評価結果における指摘事項の推移を検討することとする。

（1）評価プロセス

① 大学による自己点検・評価

本協会の大学評価（認証評価）を受けようとする大学は、協会が設定する点検・評価項目に沿って自己点検・評価を行い、その結果を点検・評価報告書として取りまとめる。

② 書面評価と実地調査

本協会は、各大学からの点検・評価報告書及び関係資料の提出を受け、大学ごとに設置する大学評価分科会にて評価者による書面評価を行う。また、書面評価では不明瞭だった点の確認や大学の一層の発展を支援するための意見交換を目的に実地調査を行う。これら書面評価と実地調査によって、対象となる大学の総合的な評価を行う。

③ 大学評価委員会による審議

大学評価委員会は、書面評価と実地調査による総合的な評価をもとに、本協会の設定する大学基準への適合性を判断する。さらに、大学の優れた取り組みが見られた場合には当該事項を長所として指摘し、大学の改善・改革が必要な事柄が見られた場合にはその事項を改善勧告または努力課題として指摘した大学評価結果（委員会案）を作成する。

④ 大学による意見申立

本協会は、大学評価結果（委員会案）を当該大学に提示し、大学が同案に対して事実誤認等の意見があれば申立てを受け付ける。大学からの大学評価結果（委員会案）に対する意見については、大学評価委員会において検討し、大学評価結果（最終案）を取りまとめる。

⑤ 大学評価結果の確定

本協会理事会にて、大学評価委員会による大学評価結果（最終案）を審議し、最終的に大学基準に適合しているか否かの判定を行い、その結果を公表する。また、大学評価結果を文部科学大臣に報告する。

なお、2018年度及び2019年度には、大学評価結果において、大学基準に適合しているか否かの判定を保留することを可能とし、大学評価結果を受領してから3年以内に再評価を申請することを求めることとしていた。この判定「保留」の仕組みについては、2020年度より法令改正により、認証評価の結果として基準への適合・不適合のいずれかを判定することが必要となったため、2019年度をもって廃止となった。

⑥ 大学による異議申立

大学評価結果において、大学基準に適合しないと判定した場合には、当該大学からの判定に対する異議の申立てを受け付ける。当該大学から異議の申立てがあった場合には、理事会のもとに設置する異議申立審査会が審査し、事実誤認の有無及び評価結果の妥当性を審査し、その結果を本協会理事会に上程する、そのうえで、本協会理事会は、改めて当該大学の大学評価結果を審議し、決定した結果を当該大学へ通知するとともに、公表する。なお、大学評価結果に変更が生じた場合は、文部科学大臣へその旨を報告する。

⑦ 改善報告書・完成報告書の検討

大学評価結果において、改善課題や是正勧告が付された大学は、本協会が提示した提言にどのように対応したかについてまとめた改善報告書を作成する。原則として、大学評価を申請してから4年以内（大学評価結果を受領してから3年以内）に、本協会に対して改善報告書を提出する。

本協会は、大学からの改善報告書の提出を受けて、大学評価委員会のもとに設ける改善報告書検討分科会において、改善状況を検討する。その結果、改善が不十分であると判断した場合には、次回認証評価時に再度報告を求める。

(2) 評価体制

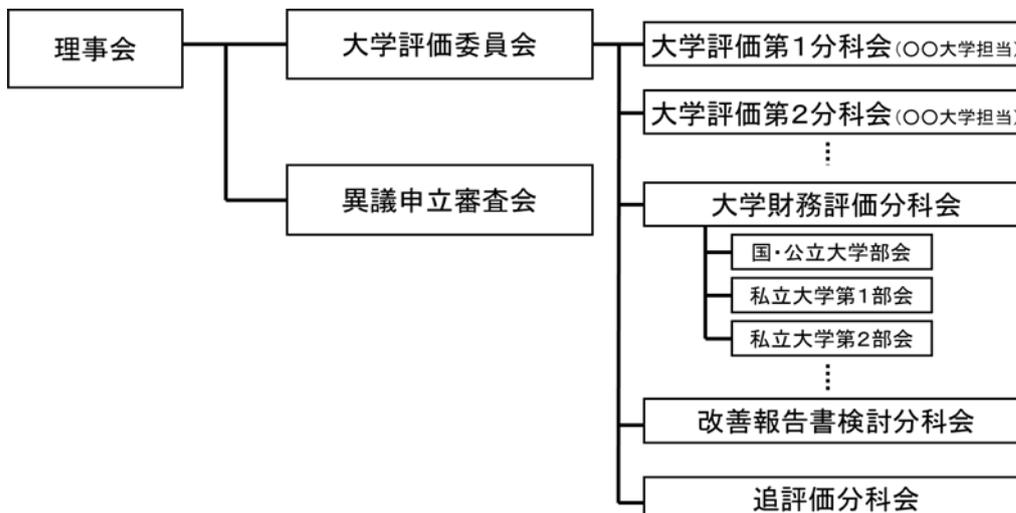
大学評価の実施に際しては、本協会理事会のもとに設置する大学評価委員会が評価方針や評価結果の審議を行い、毎年度の申請大学に応じて、同委員会のもとに各大学の書面評価及び実地調査を行う大学評価分科会を設置した。大学評価分科会は、主査1名・委員4名で構成し、本協会の正会員大学から推薦された教職員で編成した(委員4名のうち1名は職員が務める)。

また、申請大学の財務評価を実施するため、同委員会のもとに大学財務評価分科会を設置し、申請大学の設置形態や設置する学部の系統別の部会を設けて財政計画の策定状況や財務状況の評価した。大学財務評価分科会は、本協会の正会員大学から推薦された教職員で構成し、毎年度の申請大学数によるが概ね10名程度(うち1名は主査)で編成した。各部会は、担当大学数によるが、概ね3～4名程度(うち1名は主査)で編成した。

さらに、大学評価結果において付された改善課題や是正勧告に対する改善状況をとりとめた改善報告書を検討するため、大学評価委員会のもとに改善報告書検討分科会を設置した。同分科会は、改善報告書を提出する大学数に応じた評価者数とし、毎年度、10名以内(うち1名は主査)で編成した。

なお、過去の大学評価において、不適合との判定を受けた大学から、不適合の事由に対する改善状況の評価する追評価が申請された場合には、大学評価委員会のもとに追評価分科会を設置した。

【大学評価に係る組織体制図】



(3) 評価対象大学と評価結果

2018年度～2024年度の評価申請大学及びその評価結果は、以下のとおりである。

1) 2018年度

No.	設置形態	大学名	No.	設置形態	大学名
1	公法	青森公立大学	15	私立	玉川大学
2	私立	いわき明星大学(現・医療創生大学)	16	私立	天使大学
3	私立	宇都宮共和大学	17	私立	天理医療大学(現・天理大学)
4	私立	大阪薬科大学(現・大阪医科薬科大学)	18	私立	桐蔭横浜大学
5	私立	学習院女子大学	19	私立	東京医療保健大学
6	私立	神奈川工科大学	20	私立	常葉大学
7	私立	関西大学	21	公立	長野県看護大学
8	私立	京都女子大学	22	私立	名古屋学院大学
9	公法	群馬県立県民健康科学大学	23	公立	名寄市立大学
10	私立	高野山大学	24	私立	広島修道大学
11	公法	埼玉県立大学	25	私立	広島女学院大学
12	私立	芝浦工業大学	26	私立	宮城学院女子大学
13	私立	淑徳大学	27	私立	立命館大学
14	私立	清泉女子大学			

- ・大学基準に適合していると判定した大学数：25 大学
- ・大学基準に適合していないと判定した大学数：0 大学
- ・判定を保留した大学数：2 大学

2) 2019年度

No.	設置形態	大学名	No.	設置形態	大学名
1	私立	亜細亜大学	16	私立	東京神学大学
2	公法	石川県立看護大学	17	公法	東京都立産業技術大学院大学
3	私立	大原大学院大学	18	私立	東京農業大学
4	私立	鹿児島国際大学	19	私立	東邦大学
5	私立	関西外国語大学	20	私立	日本女子大学
6	私立	関西看護医療大学	21	私立	阪南大学
7	私立	九州産業大学	22	私立	兵庫医療大学(現・兵庫医科大学)
8	私立	京都文教大学	23	私立	福岡工業大学
9	私立	グロービス経営大学院大学	24	私立	佛教大学
10	私立	慶應義塾大学	25	私立	法政大学
11	公法	高知工科大学	26	公法	三重県立看護大学
12	私立	駒沢女子大学	27	国立	宮城教育大学

13	私立	埼玉工業大学	28	公法	宮城大学
14	公法	島根県立大学	29	私立	武蔵野大学
15	私立	東京経済大学	30	私立	和光大学

- ・大学基準に適合していると判定した大学数：30 大学
- ・大学基準に適合していないと判定した大学数：0 大学
- ・判定を保留した大学数：0 大学

3) 2020 年度

No.	設置形態	大学名	No.	設置形態	大学名
1	私立	愛知医科大学	21	私立	大正大学
2	私立	愛知学院大学	22	私立	中部大学
3	私立	石巻専修大学	23	公法	都留文科大学
4	私立	茨城キリスト教大学	24	私立	東京薬科大学
5	私立	岩手医科大学	25	私立	東京理科大学
6	私立	大阪医科大学 (現・大阪医科薬科大学)	26	私立	同志社大学
7	私立	岡山理科大学	27	私立	鳥取看護大学
8	私立	沖縄大学	28	私立	名古屋商科大学
9	私立	関西学院大学	29	私立	南山大学
10	私立	関東学院大学	30	私立	新潟リハビリテーション大学
11	私立	久留米大学	31	私立	二松学舎大学
12	私立	工学院大学	32	私立	姫路大学
13	私立	甲南大学	33	私立	福岡歯科大学
14	私立	駒澤大学	34	私立	福岡女学院看護大学
15	私立	産業医科大学	35	私立	文京学院大学
16	私立	四国大学	36	私立	松山大学
17	私立	自治医科大学	37	公法	山形県立米沢栄養大学
18	私立	実践女子大学	38	私立	龍谷大学
19	私立	椙山女学園大学	39	私立	早稲田大学
20	私立	仙台白百合女子大学			

- ・大学基準に適合していると判定した大学数：39 大学
- ・大学基準に適合していないと判定した大学数：0 大学

4) 2021 年度

No.	設置形態	大学名	No.	設置形態	大学名
1	私立	愛知大学	26	私立	園田学園大学
2	私立	青山学院大学	27	私立	拓殖大学

3	私立	大阪歯科大学	28	私立	中央学院大学
4	私立	神奈川大学	29	私立	中京大学
5	私立	金沢医科大学	30	私立	帝塚山大学
6	国立	金沢大学	31	私立	東京工芸大学
7	私立	川崎医療福祉大学	32	私立	東京女子医科大学
8	私立	関西医科大学	33	私立	同志社女子大学
9	私立	近畿大学	34	私立	東洋大学
10	私立	金城学院大学	35	私立	獨協大学
11	私立	敬愛大学	36	私立	中村学園大学
12	私立	敬和学園大学	37	私立	新潟工科大学
13	私立	神戸海星女子学院大学	38	私立	新潟青陵大学
14	私立	神戸親和大学	39	私立	新潟薬科大学
15	公法	国際教養大学	40	私立	日本赤十字北海道看護大学
16	私立	相模女子大学	41	私立	福岡女学院大学
17	私立	札幌学院大学	42	私立	藤田医科大学
18	私立	至学館大学	43	私立	武蔵大学
19	公立	情報科学芸術大学院大学	44	私立	明治大学
20	私立	駿河台大学	45	私立	桃山学院大学
21	私立	聖学院大学	46	私立	桃山学院教育大学(現・桃山学院大学)
22	私立	聖カタリナ大学	47	私立	流通科学大学
23	私立	聖路加国際大学	48	私立	流通経済大学
24	私立	専修大学	49	私立	和洋女子大学
25	私立	創価大学			

・大学基準に適合していると判定した大学数：49 大学

・大学基準に適合していないと判定した大学数：0 大学

5) 2022 年度

No.	設置形態	大学名	No.	設置形態	大学名
1	私立	跡見学園女子大学	26	私立	成城大学
2	公法	岩手県立大学	27	私立	清泉大学
3	私立	大阪産業大学	28	私立	洗足学園音楽大学
4	私立	大阪体育大学	29	私立	多摩美術大学
5	私立	大谷大学	30	私立	天理大学
6	私立	学習院大学	31	私立	東京基督教大学
7	私立	活水女子大学	32	私立	東京情報大学
8	私立	川崎医科大学	33	私立	日本赤十字看護大学

9	私立	九州ルーテル学院大学	34	私立	日本赤十字九州国際看護大学
10	私立	京都光華女子大学	35	私立	日本赤十字東北看護大学
11	私立	京都精華大学	36	私立	日本赤十字広島看護大学
12	私立	京都ノートルダム女子大学	37	私立	フェリス女学院大学
13	私立	京都薬科大学	38	私立	福井医療大学
14	私立	杏林大学	39	私立	福岡看護大学
15	私立	熊本学園大学	40	私立	福岡大学
16	公法	熊本県立大学	41	私立	文教大学
17	公法	高知県立大学	42	私立	北星学園大学
18	私立	神戸松蔭大学	43	私立	武庫川女子大学
19	私立	神戸女学院大学	44	私立	武蔵野美術大学
20	私立	神戸薬科大学	45	私立	明治学院大学
21	私立	國學院大學	46	私立	名城大学
22	私立	国際武道大学	47	私立	山梨英和大学
23	私立	就実大学	48	私立	横浜美術大学
24	私立	湘南工科大学	49	私立	立正大学
25	私立	女子美術大学	50	私立	立命館アジア太平洋大学

・大学基準に適合していると判定した大学数：50 大学

・大学基準に適合していないと判定した大学数：0 大学

6) 2023 年度

No.	設置形態	大学名	No.	設置形態	大学名
1	私立	愛知淑徳大学	23	私立	聖隷クリストファー大学
2	私立	藍野大学	24	私立	大東文化大学
3	公法	愛媛県立医療技術大学	25	私立	高崎健康福祉大学
4	私立	大阪経済大学	26	私立	中央大学
5	私立	北里大学	27	私立	つくば国際大学
6	私立	岐阜聖徳学園大学	28	私立	東京歯科大学
7	私立	共愛学園前橋国際大学	29	私立	東京慈恵会医科大学
8	私立	京都産業大学	30	私立	東京女子大学
9	私立	京都橘大学	31	私立	東京電機大学
10	私立	皇學館大学	32	私立	東京都市大学
11	私立	神戸女子大学	33	私立	東北福祉大学
12	公法	静岡県立大学	34	私立	東洋英和女学院大学
13	私立	社会構想大学院大学	35	私立	獨協医科大学
14	私立	順天堂大学	36	私立	豊田工業大学

15	私立	城西国際大学	37	私立	長浜バイオ大学
16	私立	城西大学	38	私立	名古屋外国語大学
17	私立	上智大学	39	私立	ノートルダム清心女子大学
18	私立	情報セキュリティ大学院大学	40	私立	白鷺大学
19	私立	昭和薬科大学	41	公法	広島市立大学
20	私立	成蹊大学	42	私立	藤女子大学
21	私立	聖心女子大学	43	私立	明治薬科大学
22	私立	聖マリアンナ医科大学			

- ・大学基準に適合していると判定した大学数：42 大学
- ・大学基準に適合していないと判定した大学数：1 大学

7) 2024 年度

No.	設置形態	大学名	No.	設置形態	大学名
1	私立	麻布大学	20	私立	東京医科大学
2	私立	追手門学院大学	21	私立	東京家政大学
3	私立	神奈川歯科大学	22	私立	東京国際大学
4	私立	共立女子大学	23	私立	東北学院大学
5	私立	神戸学院大学	24	私立	東洋学園大学
6	私立	国際基督教大学	25	私立	長崎純心大学
7	私立	国際仏教学大学院大学	26	私立	新潟産業大学
8	私立	事業構想大学院大学	27	私立	日本赤十字豊田看護大学
9	私立	上武大学	28	私立	日本大学
10	私立	昭和女子大学	29	私立	日本福祉大学
11	私立	白百合女子大学	30	私立	弘前学院大学
12	私立	西南学院大学	31	私立	文星芸術大学
13	私立	大学院大学至善館	32	私立	星薬科大学
14	私立	中部学院大学	33	私立	北海道医療大学
15	国立	筑波大学	34	私立	北海道文教大学
16	私立	津田塾大学	35	私立	明星大学
17	私立	鶴見大学	36	私立	立教大学
18	株立	デジタルハリウッド大学	37	私立	ルーテル学院大学
19	私立	東海大学			

- ・大学基準に適合していると判定した大学数：36 大学
- ・大学基準に適合していないと判定した大学数：1 大学

【設置形態別 申請大学数】

年 度	国立大学法人	公立大学法人 ／公立大学	私立大学 ／株式会社	計
2018年度	0	5	22	27
2019年度	1	6	23	30
2020年度	0	2	37	39
2021年度	1	2	46	49
2022年度	0	3	47	50
2023年度	0	3	40	43
2024年度	1	0	36	37
計	3	21	251	275

【年度別 適合、不適合、保留大学数】

年 度	適合 ※1	不適合	保留 ※2	申請大学数 ※3
2018年度	26(1)	1 ※4	2	27
2019年度	31(1)	7 ※4	0	30
2020年度	47(8)	1 ※4	—	39
2021年度	50(1)	1 ※4	—	49
2022年度	50	0	—	50
2023年度	42	1	—	43
2024年度	36	2 ※5	—	37
計	282(11)	13	2	275

※1 適合欄の()内数は、追評価・再評価で適合となった大学数を示す。

※2 保留については、2020年度以降は廃止したため、2018年度・2019年度のみ。

※3 申請大学数は、各年度の大学評価申請数を示し、追評価・再評価等を含まない大学数を示す。

※4 医学部の入学者選抜の公正性・公平性に係る問題による過去の大学評価結果の判定変更。

※5 うち1大学は、入学者選抜及び教員人事の公正性・公平性の問題等による過去の大学評価の判定変更。

【年度別 異議申立を行った大学数】

年 度	大学数
2018年度	0
2019年度	1
2020年度	—
2021年度	—
2022年度	—
2023年度	0
2024年度	0
計	1

※異議申立は、評価結果受領から2週間以内に申立を行い、その後に異議申立審査会にて審査を実施する。そのため、年度を超えて審査を実施することとなるが、「年度」欄は評価申請年度で示している。

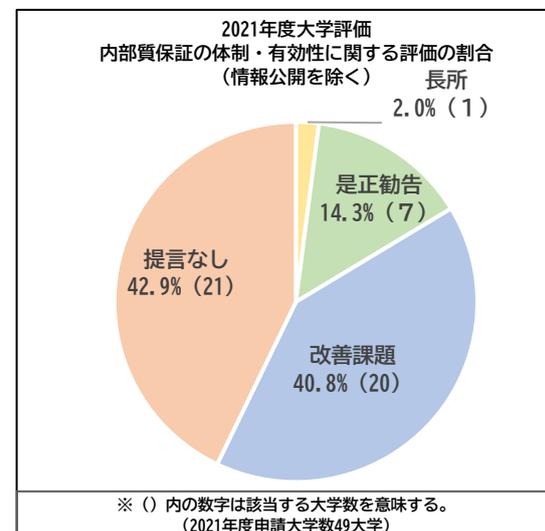
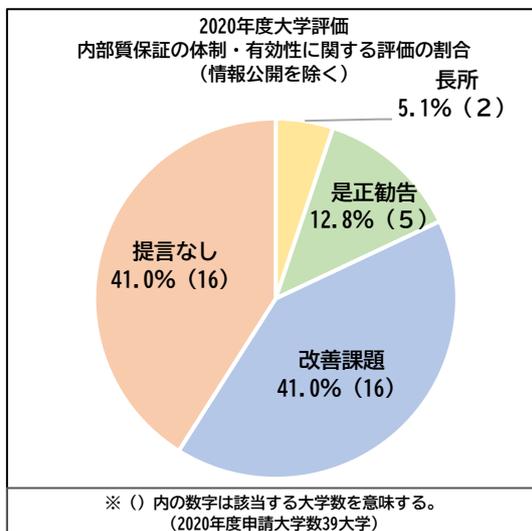
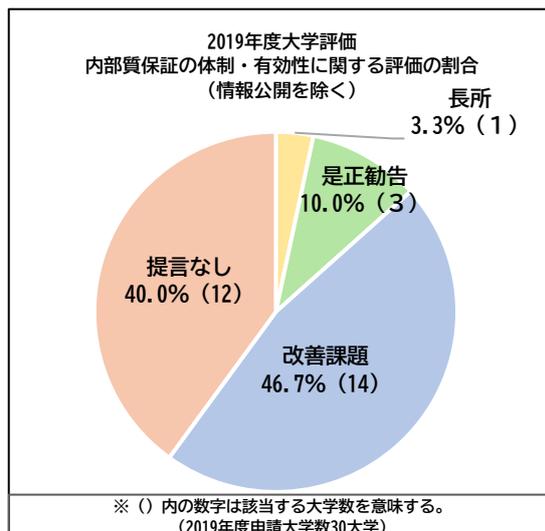
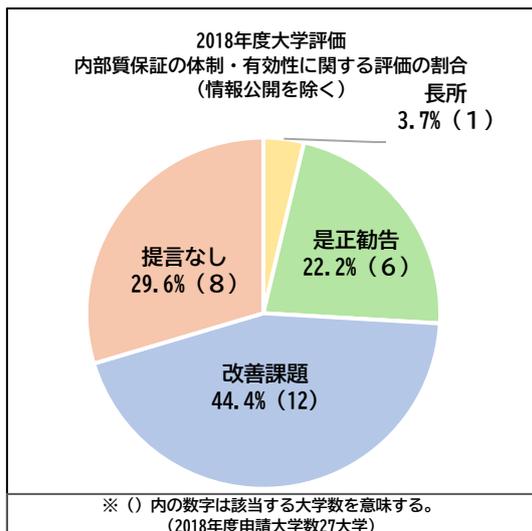
※2019年度の異議申立は、医学部の入学者選抜の公正性・公平性に係る問題による過去の大学評価結果の判定変更に対する異議申立。

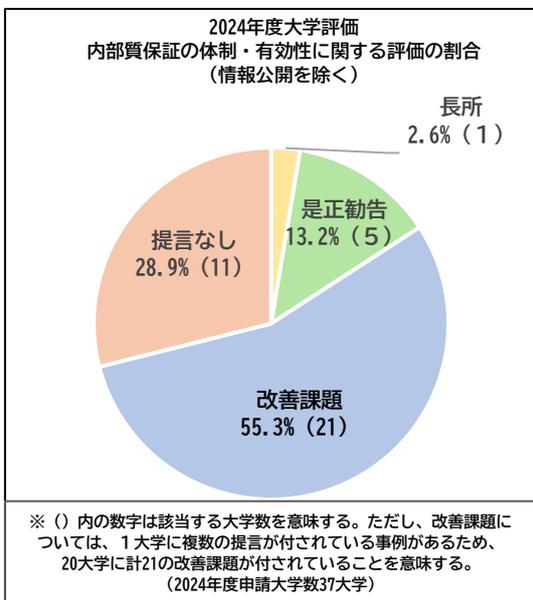
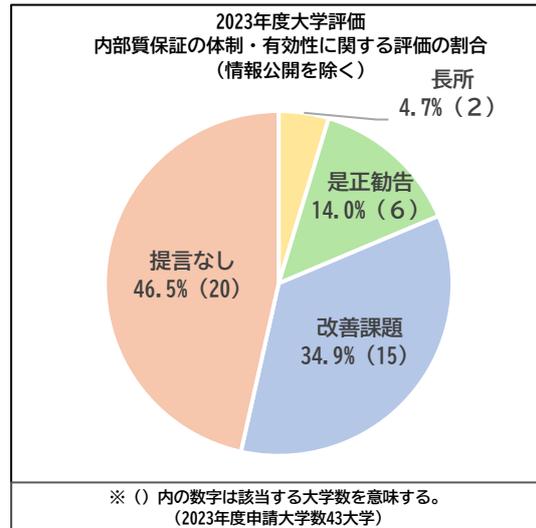
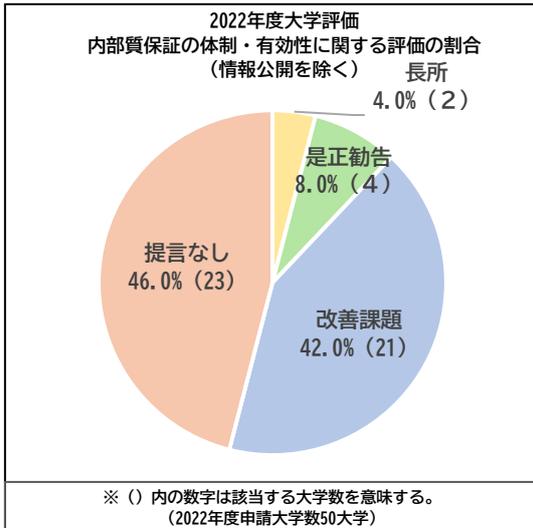
※「—」で示す2020～2022年度は、大学評価の結果で不適合と判定した大学がなかったことを示す。

(4) 大学評価結果に見る内部質保証、学習成果の把握・評価

本協会では、毎年度末に、当該年度の大学評価結果から、提言（長所、改善課題、是正勧告）の総数や基準ごとの数、傾向を分析し、その結果を公表している。そのなかから、第3期に重点を置いて評価をした内部質保証（大学基準・基準2）及び学習成果の把握・評価（大学基準・基準4）の状況について述べる。

【内部質保証の体制・有効性に関する評価の割合（情報公開を除く）】

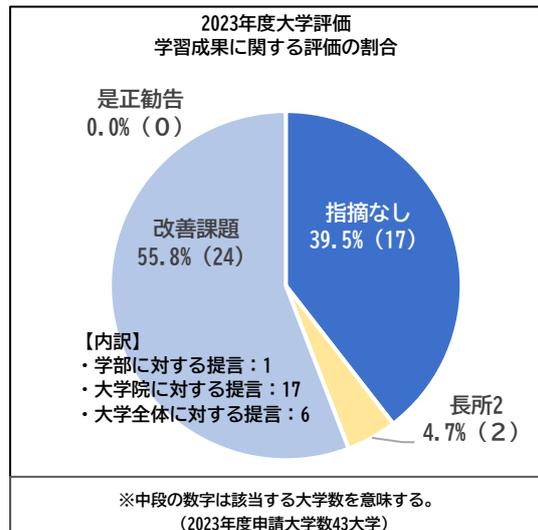
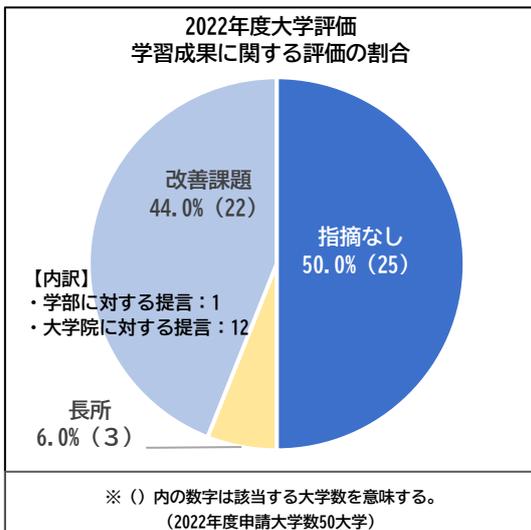
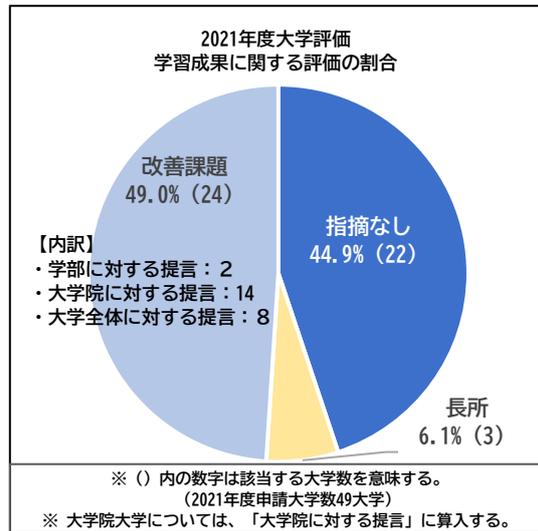
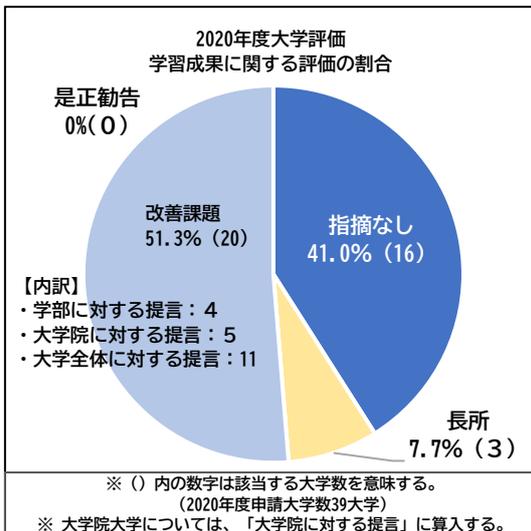
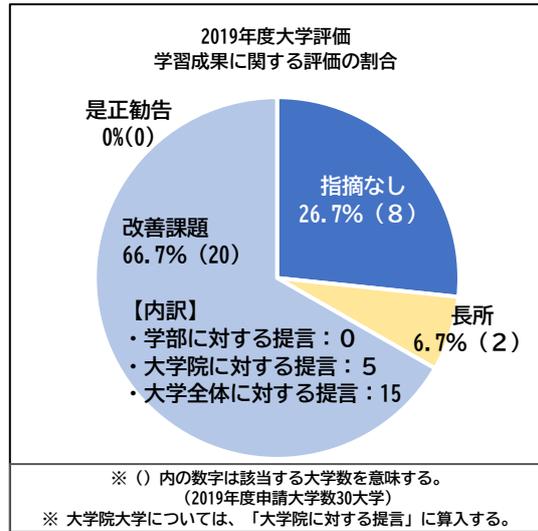
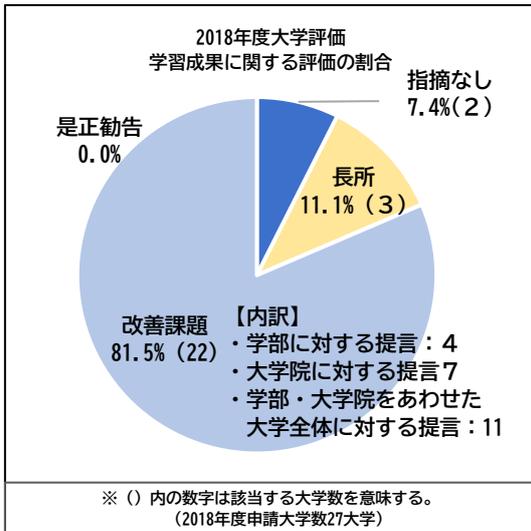


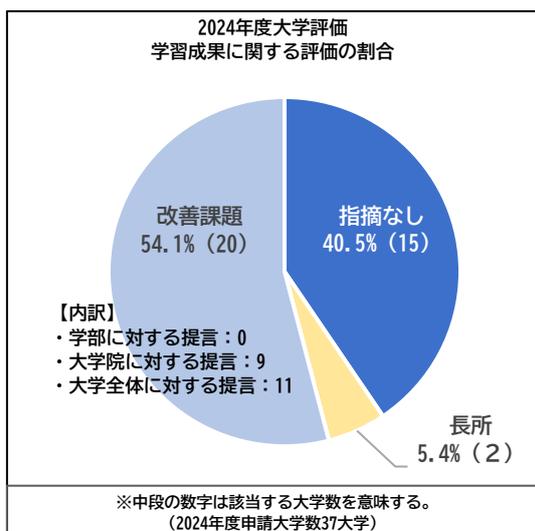


大学基準において、内部質保証システムを整備して機能させることを求めており、これに沿って評価した結果、第3期の7年間を通して、3割～4割の大学では内部質保証が機能している（あるいは機能しはじめている）と評価され、毎年1～2大学程度は長所が付されている。これらの大学では、内部質保証を機能させることにより、教育の改善・向上につながっており、これらの情報を積極的に公開する取り組みがみられた。

一方、約半数の大学に問題点（改善課題、是正勧告）が付されており、改善課題の多くは内部質保証体制の整備面での課題（例えば、内部質保証に関わる各種会議体の役割分担が不明瞭など）、もしくは、内部質保証の機能が十分でない（例えば、自己点検・評価の結果から改善・向上につながるプロセスが十分に機能しておらず、改善・向上に結びついていないなど）といった指摘である。また、是正勧告では、定期的な自己点検・評価の仕組みが整備されておらず、大学による自主的な改善・向上が滞っているといった指摘がみられた。

【学習成果の把握・評価に関する評価の割合】





大学基準において、学位授与方針に定める卒業・修了までに習得すべき知識・技能・態度等（学習成果）が学生に身に付いたかを把握・評価し、その結果を活用して教育の改善・向上につなげることを求めている。大学基準に沿って評価した結果、第3期の7年間に於いて、是正勧告は付されていないことから、学習成果の把握・評価に全く取り組んでいない大学は皆無であることがわかる。また、2018年度～2021年度では次第に改善課題が減少していることから、多くの大学で学位授与方針に示す学習成果を把握・評価する指標等の開発が進み、その結果を分析する段階まで進んだことがわかる。特に、学士課程においては、大学全体の3つの方針、学部・学科、研究科・専攻の3つの方針が整備され、授与する学位ごとの学習成果を明確に示した学位授与方針を整備し、これに応じた学習成果の把握・評価に取り組んでいる事例が増している。

一方で、改善課題の内訳をみると、大学院（修士課程・博士課程など）の学習成果の把握・評価は、まだ学士課程ほどには進んでおらず、この点を含めて指摘されている事例が見受けられる。これによって、2023年度及び2024年度に改善課題が付された割合が増加している。この背景には、大学院に在籍する学生数が多くないこと、学位論文の審査と学習成果の把握・評価の関連が十分に整理・構築できていないことなどが見て取れる。

第2章 「大学評価の有効性に関する調査」の結果について

第3期認証評価において、本協会は、各大学における内部質保証の有効性と機能性を重視し、その確立と発展を支援してきた。その際、内部質保証を証明・説明するうえでは、学習成果の把握と評価が不可欠であるとの認識に立ち、評価を実施してきた。こうした方針のもとで得られた評価結果については既に前章で述べたとおりであるが、本協会の大学評価が大学にとって有効であったかどうか、とりわけ大学における質保証の取り組みを促進することに寄与できたかどうかを検証することが重要である。そのため、本章において有効性調査の結果を提示し、その章末に総括として分析を示すこととした。

1 各アンケート項目に対する回答

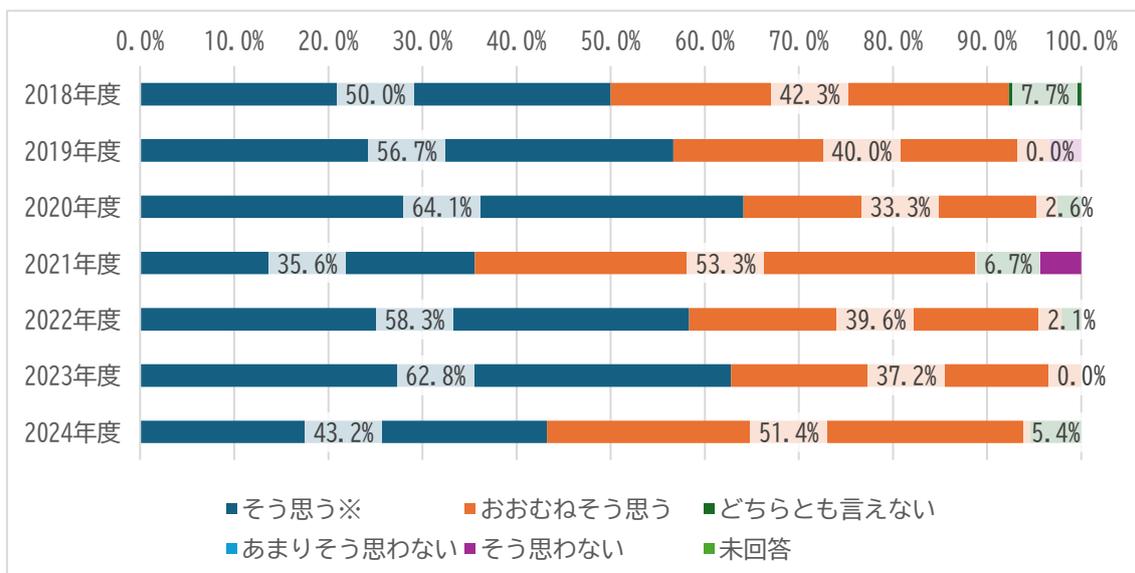
(1) 大学評価の実施プロセス、体制等

1) 事前準備

(設問1) 本協会の提供する申請準備、基準等の解説動画、オンライン事例報告会は、大学評価の申請準備に役立った。

→ (2021年度までの設問) 本協会主催の実務説明会は、大学評価の申請準備に役立った。

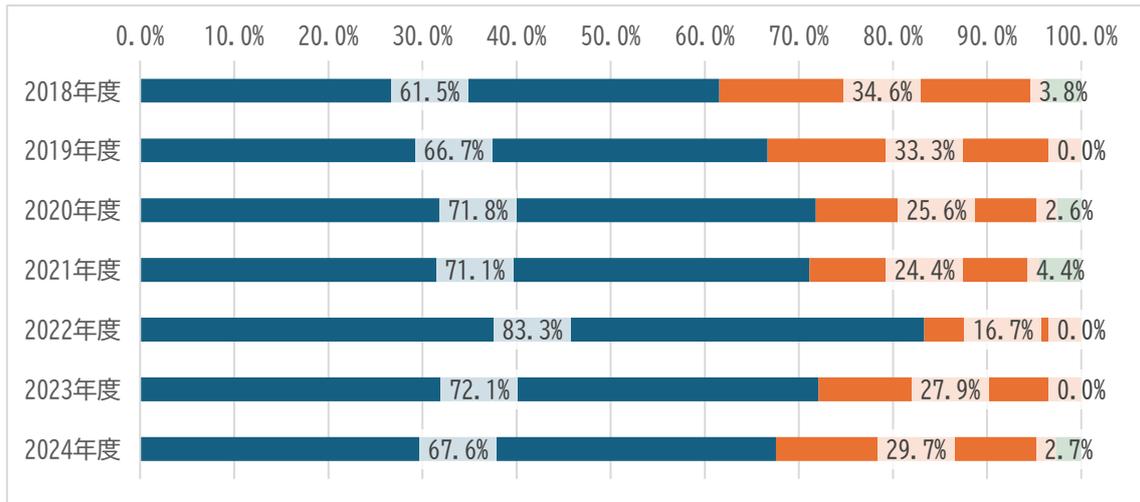
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	50.0%	56.7%	64.1%	35.6%	58.3%	62.8%	43.2%	142
おおむねそう思う	42.3%	40.0%	33.3%	53.3%	39.6%	37.2%	51.4%	114
どちらとも言えない	7.7%	0.0%	2.6%	6.7%	2.1%	0.0%	5.4%	9
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
そう思わない	0.0%	3.3%	0.0%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



※選択肢については、2021年度までは「該当する」「おおむね該当する」「どちらとも言えない」「あまり該当しない」「該当しない」(以下、設問同じ)

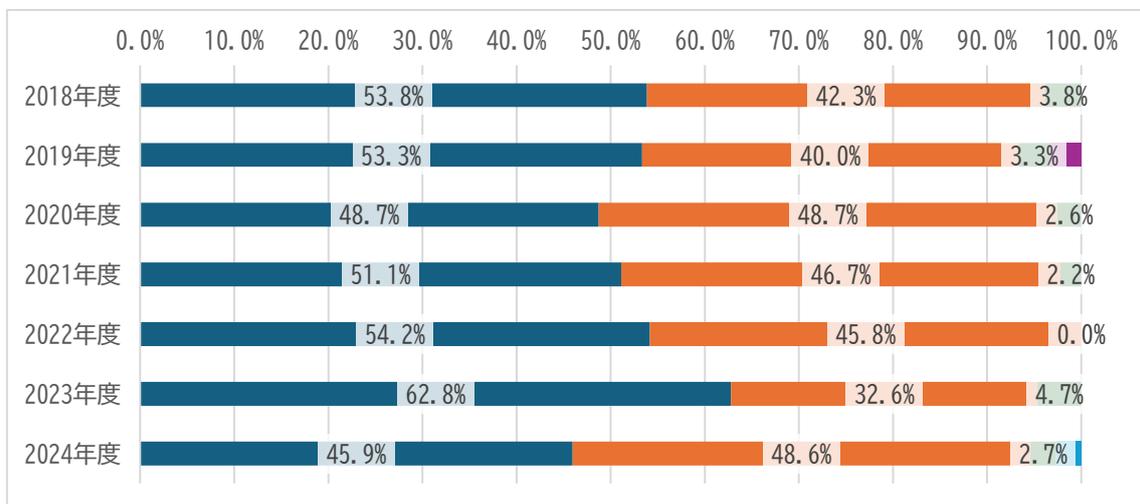
(設問2)『大学評価ハンドブック』の内容は、大学評価の申請準備に役立った。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	61.5%	66.7%	71.8%	71.1%	83.3%	72.1%	67.6%	192
おおむねそう思う	34.6%	33.3%	25.6%	24.4%	16.7%	27.9%	29.7%	71
どちらとも言えない	3.8%	0.0%	2.6%	4.4%	0.0%	0.0%	2.7%	5
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



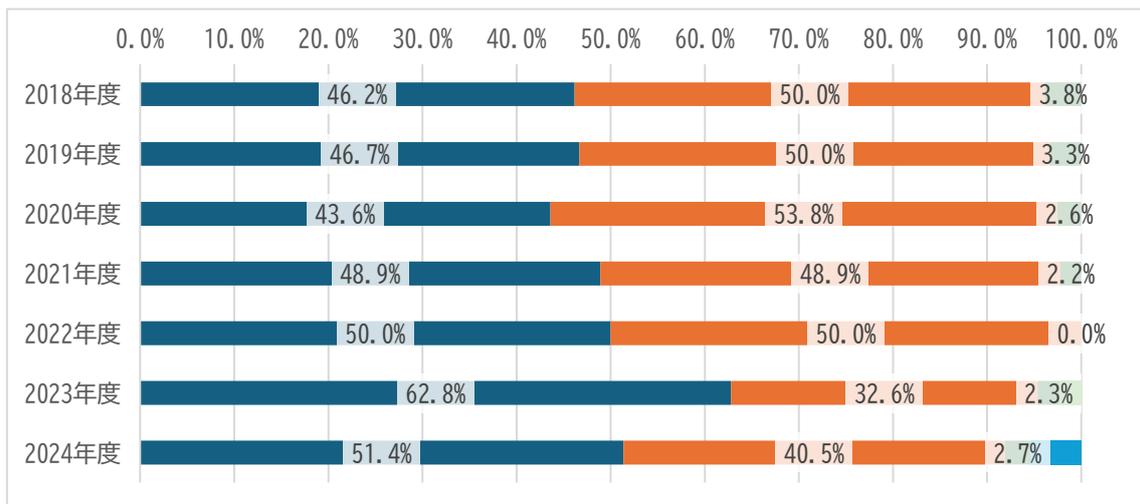
(設問3)「『大学基準』及びその解説」(『大学評価ハンドブック』資料1)の内容は、自己点検・評価を行う基準として適切であった。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	53.8%	53.3%	48.7%	51.1%	54.2%	62.8%	45.9%	142
おおむねそう思う	42.3%	40.0%	48.7%	46.7%	45.8%	32.6%	48.6%	117
どちらとも言えない	3.8%	3.3%	2.6%	2.2%	0.0%	4.7%	2.7%	7
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	1
そう思わない	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



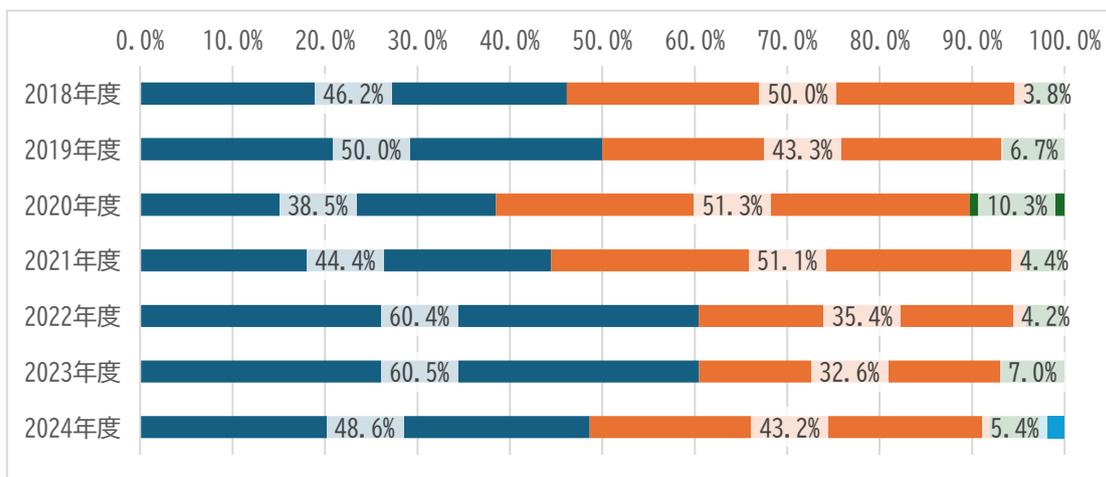
(設問4)「点検・評価項目」(『大学評価ハンドブック』資料2)の内容は、自己点検・評価を行う枠組みとして適切であった。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	46.2%	46.7%	43.6%	48.9%	50.0%	62.8%	51.4%	135
おおむねそう思う	50.0%	50.0%	53.8%	48.9%	50.0%	32.6%	40.5%	124
どちらとも言えない	3.8%	3.3%	2.6%	2.2%	0.0%	2.3%	2.7%	6
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	1
計	26	30	39	45	48	43	37	268



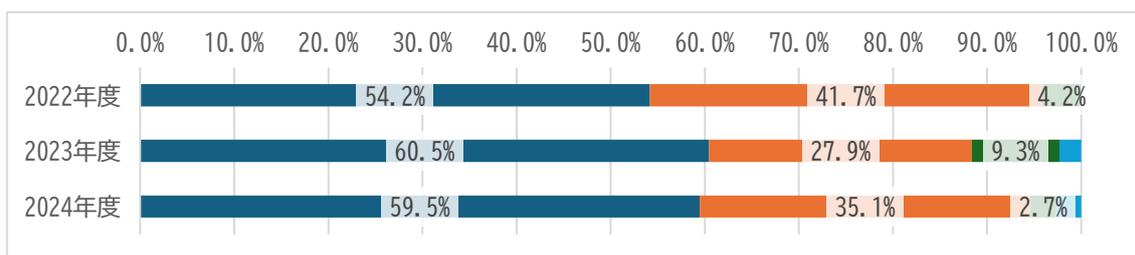
(設問5a)「評価の視点」(『大学評価ハンドブック』資料2)の内容は、「点検・評価項目」に基づき、大学自身の「評価の視点」を定めるための例示として適切であった。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	46.2%	50.0%	38.5%	44.4%	60.4%	60.5%	48.6%	135
おおむねそう思う	50.0%	43.3%	51.3%	51.1%	35.4%	32.6%	43.2%	116
どちらとも言えない	3.8%	6.7%	10.3%	4.4%	4.2%	7.0%	5.4%	16
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	1
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



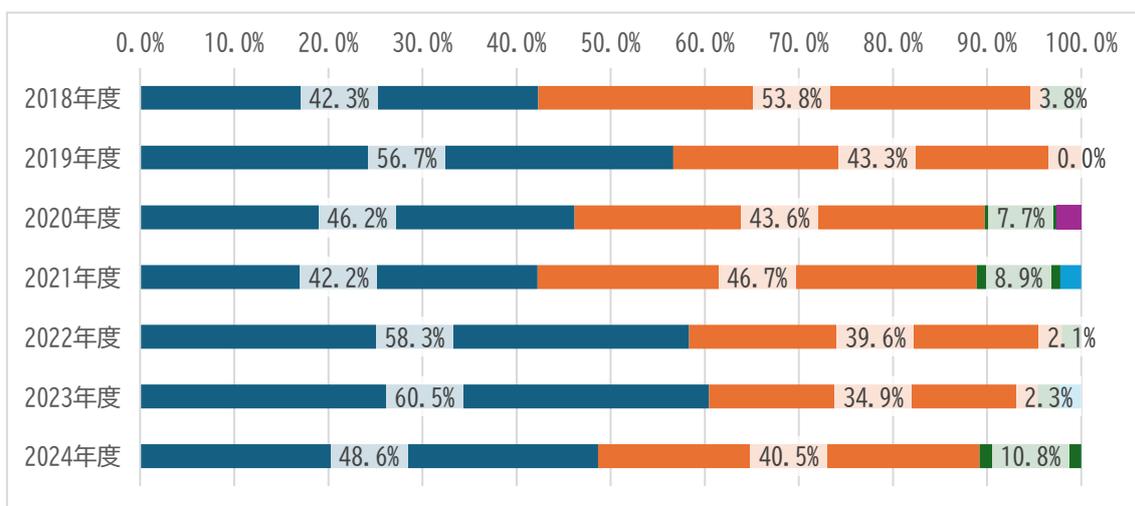
(設問5b)「点検・評価報告書 記述の注意点と根拠資料例(大学評価)」(『大学評価ハンドブック』資料6)は十分に活用することができた。(2022年度より設問追加)

	1	2	3	計
	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	54.2%	60.5%	59.5%	74
おおむねそう思う	41.7%	27.9%	35.1%	45
どちらとも言えない	4.2%	9.3%	2.7%	7
あまりそう思わない	0.0%	2.3%	2.7%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	48	43	37	128



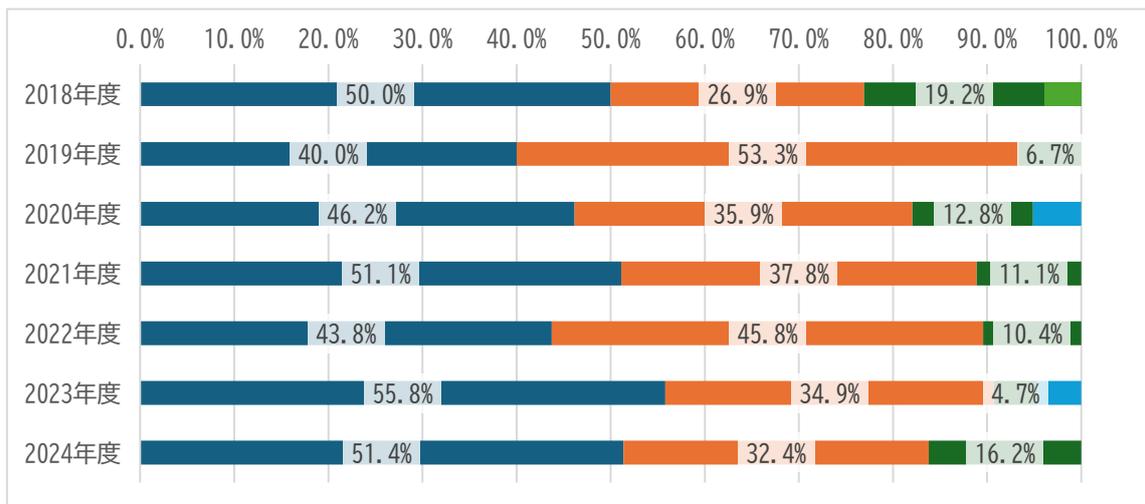
(設問6)「提言(長所、改善課題、是正勧告)の定義」(『大学評価ハンドブック』9頁)における各提言の定義は、適切である。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	42.3%	56.7%	46.2%	42.2%	58.3%	60.5%	48.6%	137
おおむねそう思う	53.8%	43.3%	43.6%	46.7%	39.6%	34.9%	40.5%	114
どちらとも言えない	3.8%	0.0%	7.7%	8.9%	2.1%	2.3%	10.8%	14
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	2.3%	0.0%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



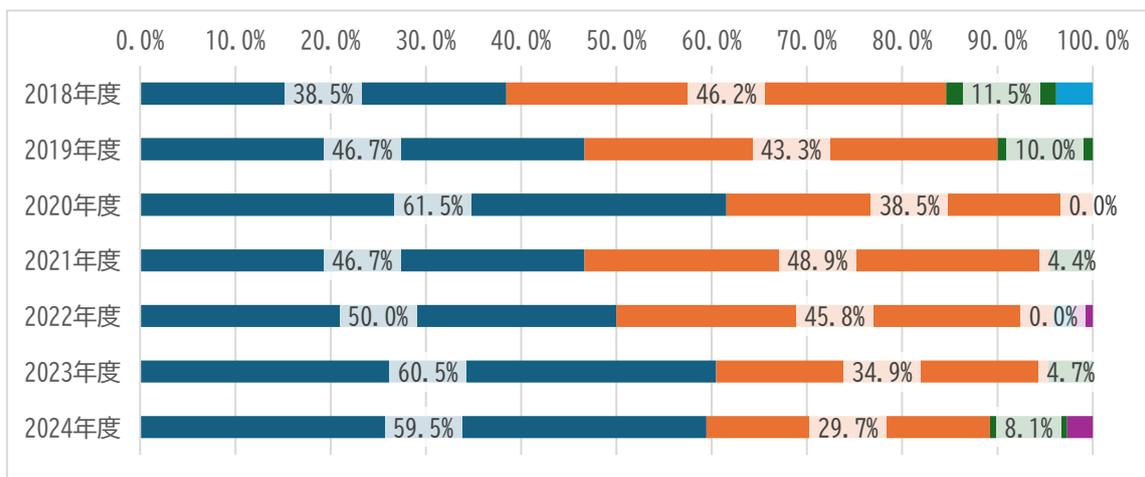
(設問7)「評価(S、A、B、C)基準」(『大学評価ハンドブック』29頁)は、評価を決定するための基準として適切である。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	50.0%	40.0%	46.2%	51.1%	43.8%	55.8%	51.4%	130
おおむねそう思う	26.9%	53.3%	35.9%	37.8%	45.8%	34.9%	32.4%	103
どちらとも言えない	19.2%	6.7%	12.8%	11.1%	10.4%	4.7%	16.2%	30
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%	4
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問8)「基礎要件に係る評価の指針」(『大学評価ハンドブック』資料4)の内容は、法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況を判断するための指針として適切である。

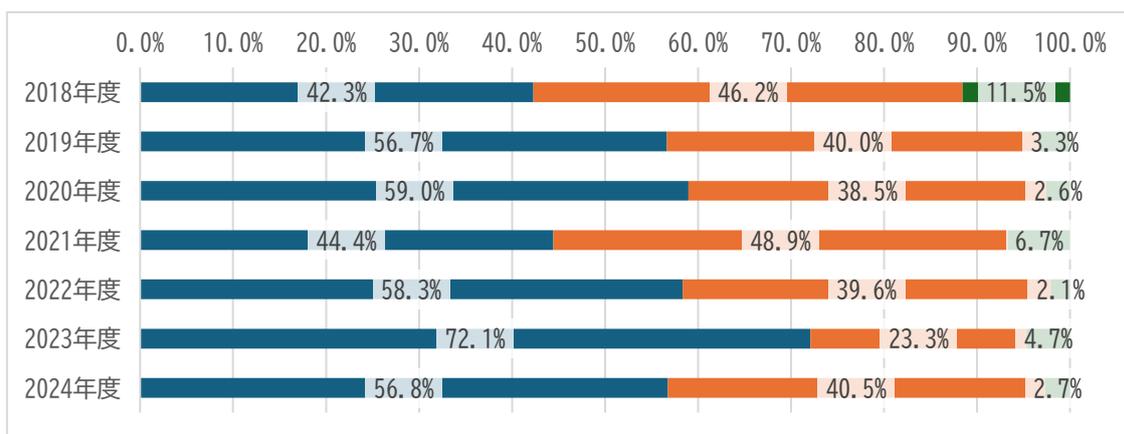
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	38.5%	46.7%	61.5%	46.7%	50.0%	60.5%	59.5%	141
おおむねそう思う	46.2%	43.3%	38.5%	48.9%	45.8%	34.9%	29.7%	110
どちらとも言えない	11.5%	10.0%	0.0%	4.4%	0.0%	4.7%	8.1%	13
あまりそう思わない	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	2.7%	2
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問9)「判定の基準とその運用指針」(『大学評価ハンドブック』資料3)に示された適合・不適合の考え方は、十分に納得がいくものである。

→(2022年度までの設問)「判定及び判定保留の基準とその運用指針」(『大学評価ハンドブック』資料3)の内容は、判定及び判定保留を判断するための指針として適切である。

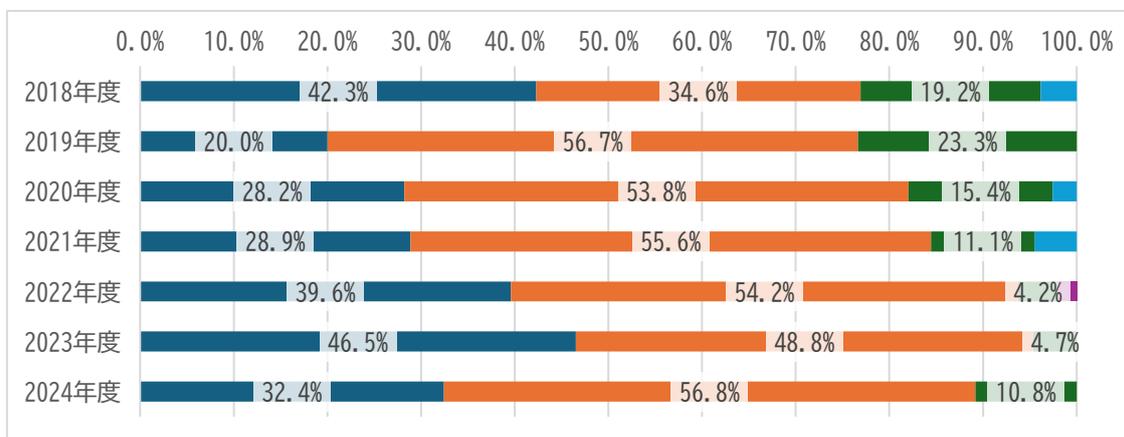
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	42.3%	56.7%	59.0%	44.4%	58.3%	72.1%	56.8%	151
おおむねそう思う	46.2%	40.0%	38.5%	48.9%	39.6%	23.3%	40.5%	105
どちらとも言えない	11.5%	3.3%	2.6%	6.7%	2.1%	4.7%	2.7%	12
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問10)本協会の提示した『大学基礎データ』の様式は、大学の状況を定量的に表すのに適切であった。

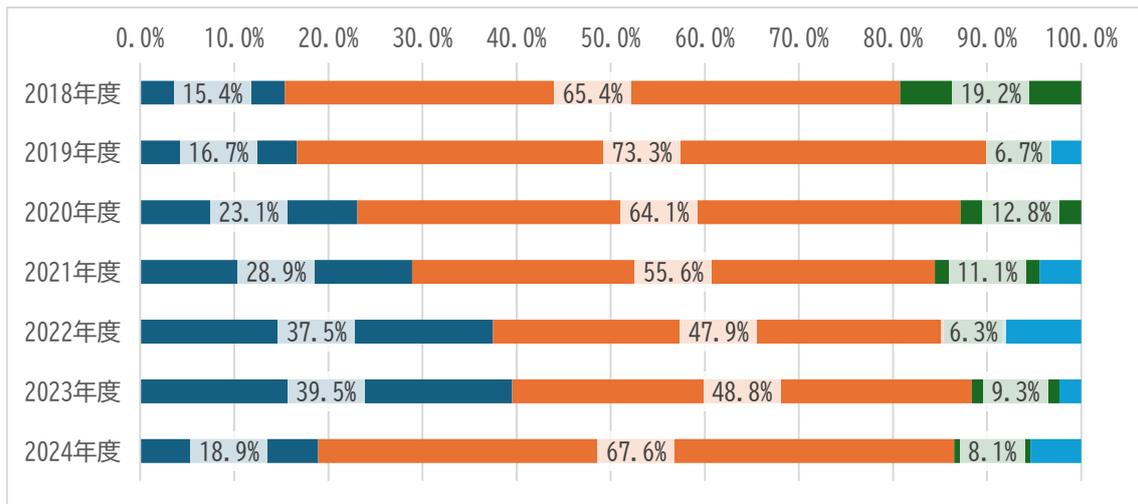
→(2022年度までの設問)本協会の提示した『大学基礎データ』の様式は、適切であった。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	42.3%	20.0%	28.2%	28.9%	39.6%	46.5%	32.4%	92
おおむねそう思う	34.6%	56.7%	53.8%	55.6%	54.2%	48.8%	56.8%	140
どちらとも言えない	19.2%	23.3%	15.4%	11.1%	4.2%	4.7%	10.8%	31
あまりそう思わない	3.8%	0.0%	2.6%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	4
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



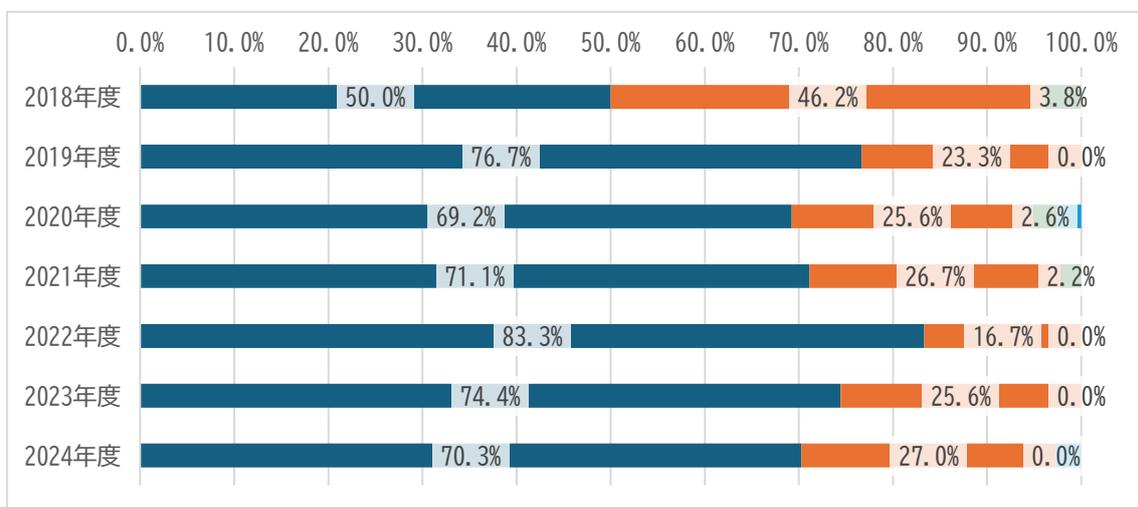
(設問 11)『点検・評価報告書』の記述を裏付ける根拠資料を円滑に提出することができた。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	15.4%	16.7%	23.1%	28.9%	37.5%	39.5%	18.9%	73
おおむねそう思う	65.4%	73.3%	64.1%	55.6%	47.9%	48.8%	67.6%	158
どちらとも言えない	19.2%	6.7%	12.8%	11.1%	6.3%	9.3%	8.1%	27
あまりそう思わない	0.0%	3.3%	0.0%	4.4%	8.3%	2.3%	5.4%	10
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 12 a) 根拠資料を電子データで提出することは、その提出方法を含め適切であった。
(2020年度まで (設問 12))

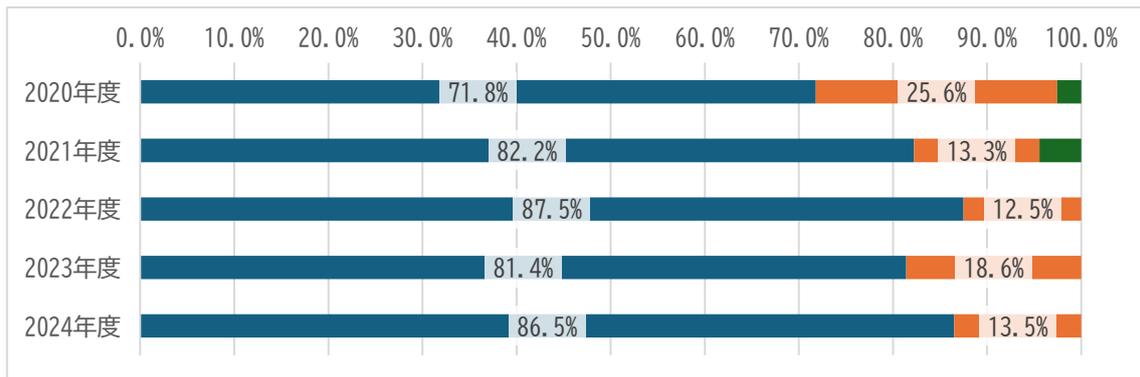
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	50.0%	76.7%	69.2%	71.1%	83.3%	74.4%	70.3%	193
おおむねそう思う	46.2%	23.3%	25.6%	26.7%	16.7%	25.6%	27.0%	70
どちらとも言えない	3.8%	0.0%	2.6%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問12b)根拠資料の提出においてクラウド・ストレージを利用することは適切であった。

(2020年度より設問追加)

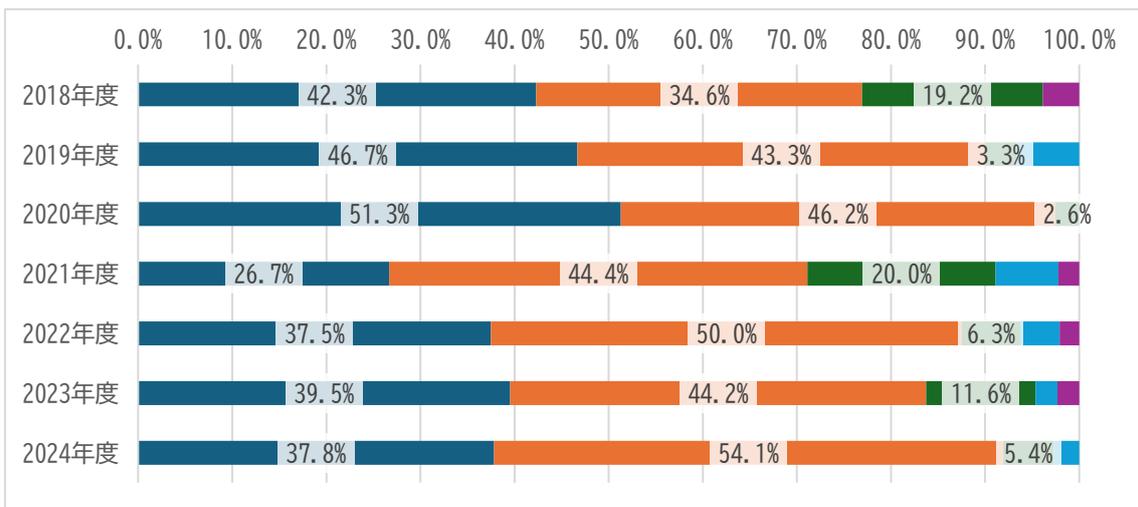
	1	2	3	4	5	計
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	71.8%	82.2%	87.5%	81.4%	86.5%	174
おおむねそう思う	25.6%	13.3%	12.5%	18.6%	13.5%	35
どちらとも言えない	2.6%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	39	45	48	43	37	212



2) 実地調査

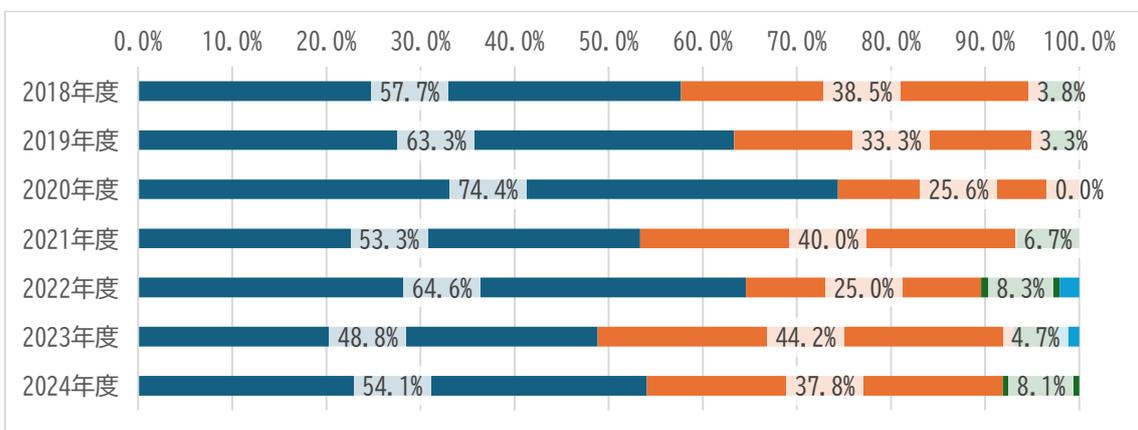
(設問 14) 実施時期（実施時期の決定方法を含む）は、適切であった。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	42.3%	46.7%	51.3%	26.7%	37.5%	39.5%	37.8%	106
おおむねそう思う	34.6%	43.3%	46.2%	44.4%	50.0%	44.2%	54.1%	123
どちらとも言えない	19.2%	3.3%	2.6%	20.0%	6.3%	11.6%	5.4%	26
あまりそう思わない	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	4.2%	2.3%	2.7%	9
そう思わない	3.8%	0.0%	0.0%	2.2%	2.1%	2.3%	0.0%	4
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 15a) 日数（2日間）は、適切であった。（2019年度まで（設問 15））

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	57.7%	63.3%	74.4%	53.3%	64.6%	48.8%	54.1%	159
おおむねそう思う	38.5%	33.3%	25.6%	40.0%	25.0%	44.2%	37.8%	93
どちらとも言えない	3.8%	3.3%	0.0%	6.7%	8.3%	4.7%	8.1%	14
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	2.3%	0.0%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 15 b) オンライン併用による実施は適当であった。(全面对面式だったが、オンライン併用できるのは適当だと思う) (2023、2024) (2019 年度まで設問なし)

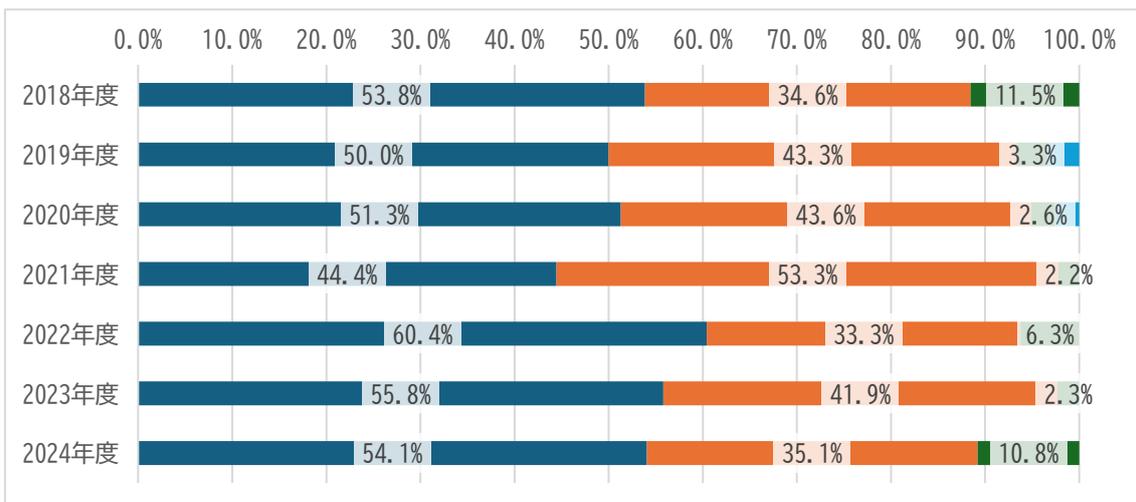
→ (2020、2021 年度の設問) オンラインによる実施は適当であった。

	1	2	3	4	5	計
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	43.6%	28.9%	33.3%	32.6%	48.6%	78
おおむねそう思う	30.8%	57.8%	27.1%	39.5%	27.0%	78
どちらとも言えない	20.5%	11.1%	22.9%	14.0%	16.2%	36
あまりそう思わない	5.1%	0.0%	14.6%	9.3%	8.1%	16
そう思わない	0.0%	2.2%	2.1%	4.7%	0.0%	4
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	39	45	48	43	37	212



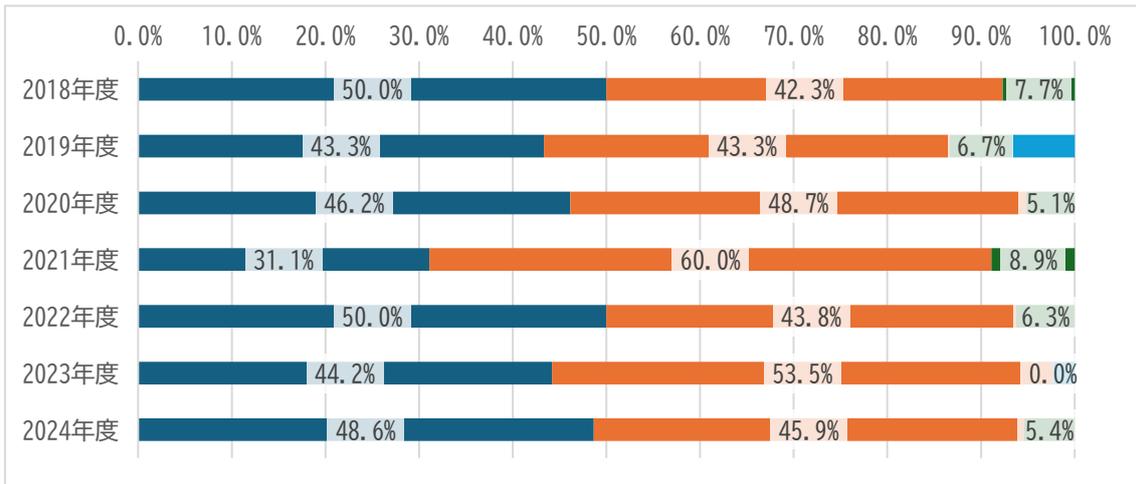
(設問 16) プログラム構成 (全体面談、個別面談、学生インタビュー等) は、適切であった。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	53.8%	50.0%	51.3%	44.4%	60.4%	55.8%	54.1%	142
おおむねそう思う	34.6%	43.3%	43.6%	53.3%	33.3%	41.9%	35.1%	110
どちらとも言えない	11.5%	3.3%	2.6%	2.2%	6.3%	2.3%	10.8%	14
あまりそう思わない	0.0%	3.3%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 17) 各プログラムの時間配分は、適切であった。

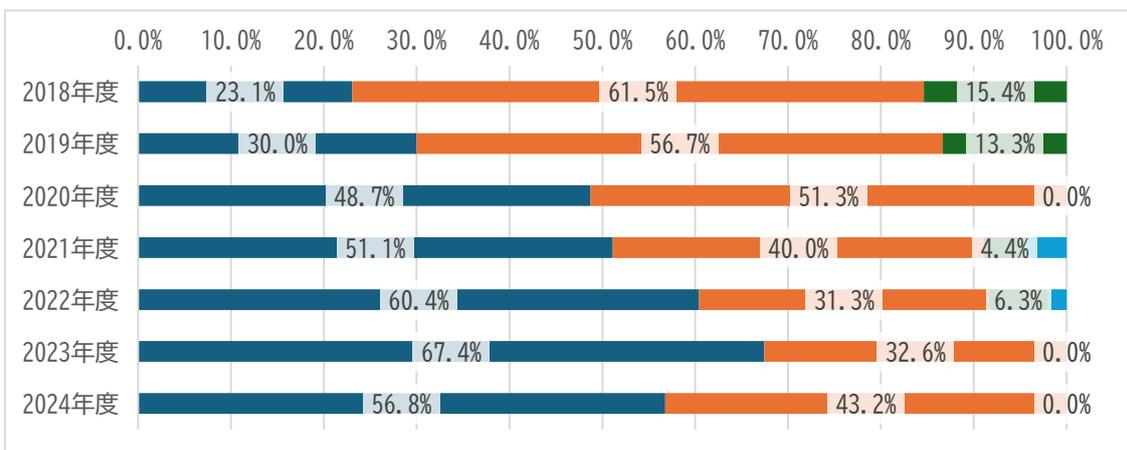
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	50.0%	43.3%	46.2%	31.1%	50.0%	44.2%	48.6%	119
おおむねそう思う	42.3%	43.3%	48.7%	60.0%	43.8%	53.5%	45.9%	131
どちらとも言えない	7.7%	6.7%	5.1%	8.9%	6.3%	0.0%	5.4%	15
あまりそう思わない	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	3
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 18) 1日目の全体面談において設けられた学長によるプレゼンテーションにより、大学の内部質保証に対する姿勢を提示することができた。

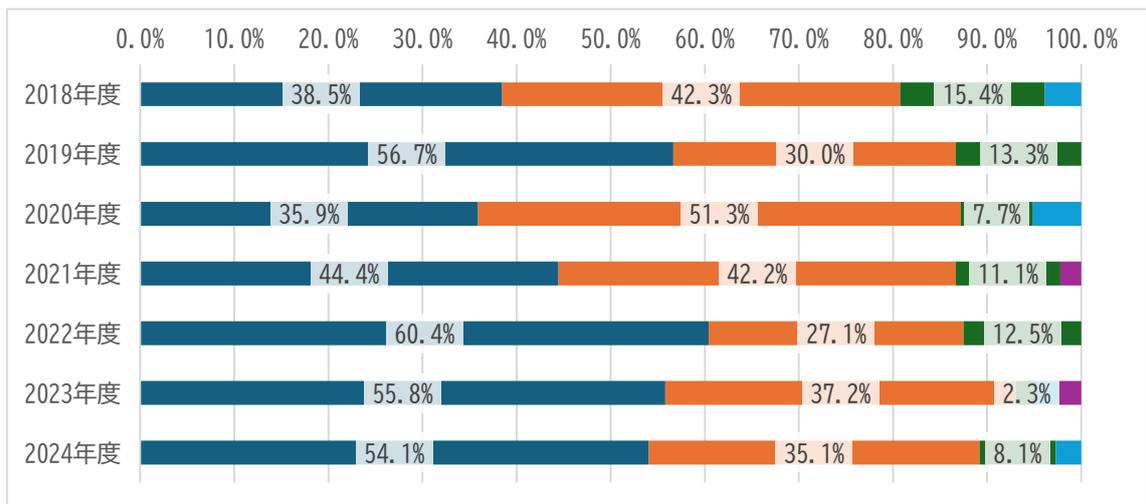
→ (2022年度までの設問) 1日目の全体面談において設けられたプレゼンテーションにより、大学の内部質保証に対する姿勢を提示することができた。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	23.1%	30.0%	48.7%	51.1%	60.4%	67.4%	56.8%	136
おおむねそう思う	61.5%	56.7%	51.3%	40.0%	31.3%	32.6%	43.2%	116
どちらとも言えない	15.4%	13.3%	0.0%	4.4%	6.3%	0.0%	0.0%	13
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%	2.1%	0.0%	0.0%	3
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



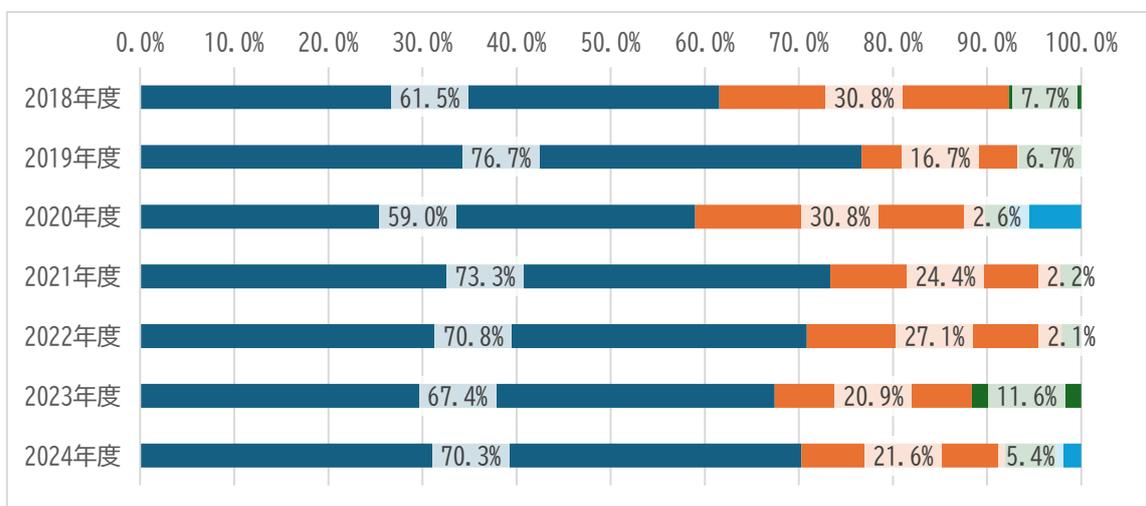
(設問 19) 2日目の全体面談において、大学のさらなる発展のために有益な意見交換を行うことができた。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	38.5%	56.7%	35.9%	44.4%	60.4%	55.8%	54.1%	134
おおむねそう思う	42.3%	30.0%	51.3%	42.2%	27.1%	37.2%	35.1%	101
どちらとも言えない	15.4%	13.3%	7.7%	11.1%	12.5%	2.3%	8.1%	26
あまりそう思わない	3.8%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%	2.3%	2.7%	5
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	2.3%	0.0%	2
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



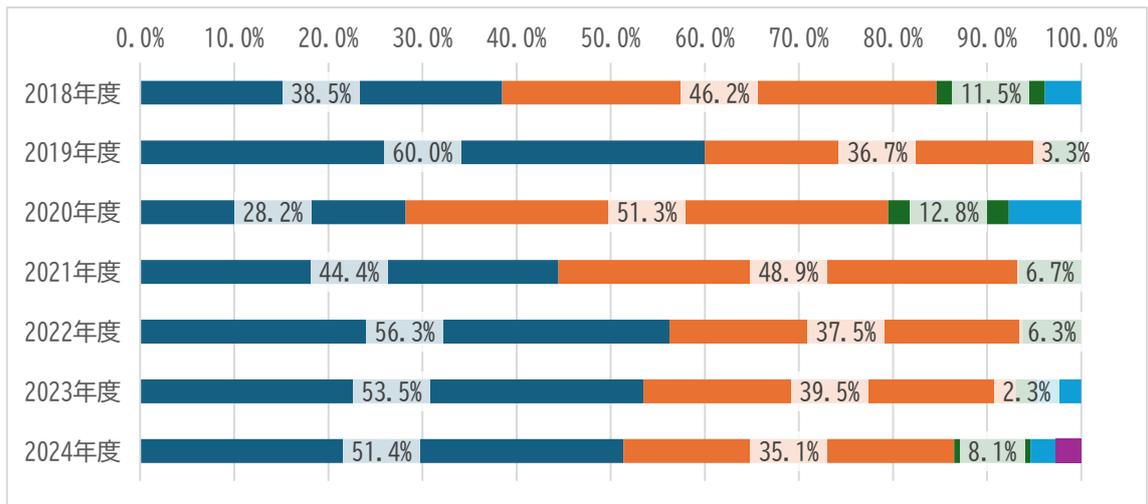
(設問 20) 評価者の姿勢・態度は、適切であった。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	61.5%	76.7%	59.0%	73.3%	70.8%	67.4%	70.3%	184
おおむねそう思う	30.8%	16.7%	30.8%	24.4%	27.1%	20.9%	21.6%	66
どちらとも言えない	7.7%	6.7%	2.6%	2.2%	2.1%	11.6%	5.4%	14
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	4
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 21) 評価者と適切に意見交換をすることができた。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	38.5%	60.0%	28.2%	44.4%	56.3%	53.5%	51.4%	128
おおむねそう思う	46.2%	36.7%	51.3%	48.9%	37.5%	39.5%	35.1%	113
どちらとも言えない	11.5%	3.3%	12.8%	6.7%	6.3%	2.3%	8.1%	19
あまりそう思わない	3.8%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	4.7%	2.7%	7
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268

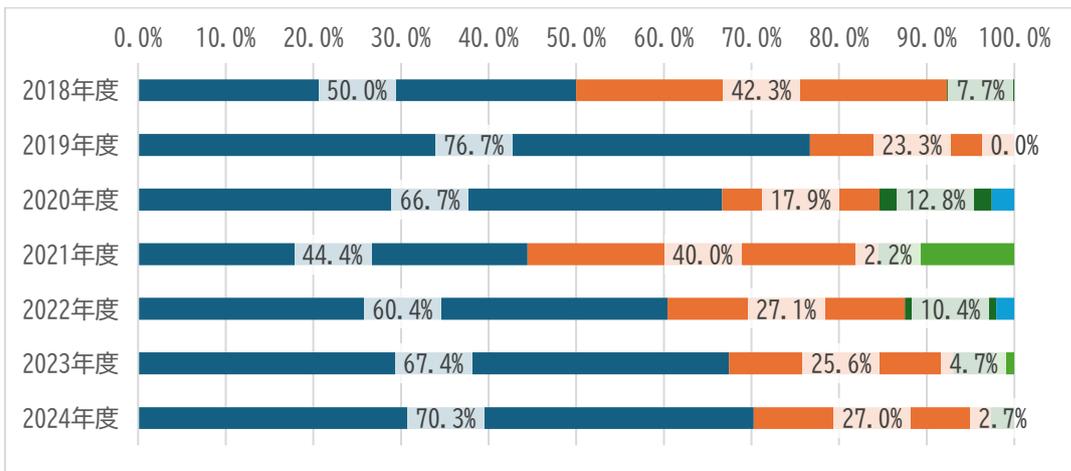


3) 意見申立制度

(設問 23) 意見申立の対象となる事項等や制度は、適切である。

→ (2020 年度までの設問) 制度の仕組みは、適切である。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	50.0%	76.7%	66.7%	44.4%	60.4%	67.4%	70.3%	166
おおむねそう思う	42.3%	23.3%	17.9%	40.0%	27.1%	25.6%	27.0%	77
どちらとも言えない	7.7%	0.0%	12.8%	2.2%	10.4%	4.7%	2.7%	16
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答※2	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	2.3%	0.0%	7
計	26	30	39	45	48	43	37	268

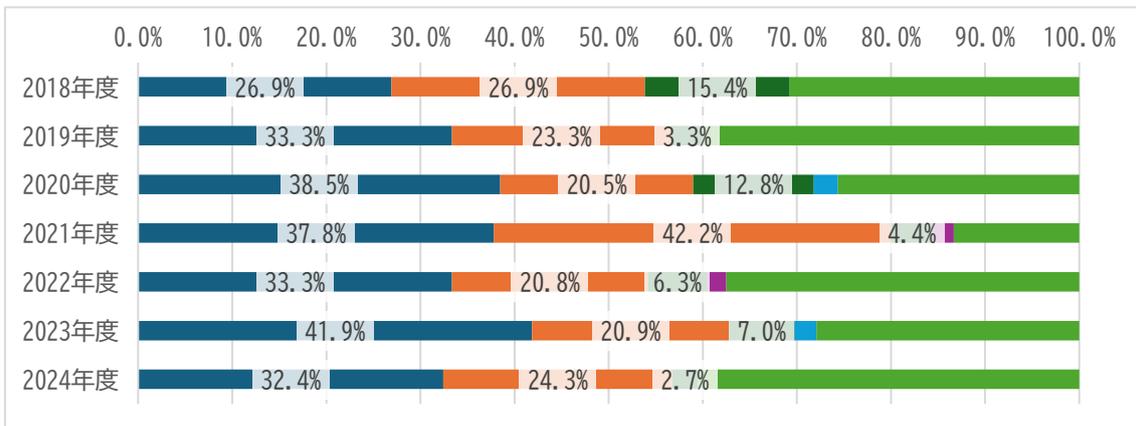


※2 2021 年度のみ、「申立てをしていない」が選択肢にあったが、「未回答」に含めた。

(設問 24) 【意見申立をした大学のみ】 意見申立に対する本協会の対応は、適切であった。

→ (2021 年度は、「【意見申立をした大学のみ】」の文言をはずし、選択肢に「申立をしていない」を追加。)

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	26.9%	33.3%	38.5%	37.8%	33.3%	41.9%	32.4%	95
おおむねそう思う	26.9%	23.3%	20.5%	42.2%	20.8%	20.9%	24.3%	69
どちらとも言えない	15.4%	3.3%	12.8%	4.4%	6.3%	7.0%	2.7%	19
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	2.1%	0.0%	0.0%	2
未回答※2	30.8%	40.0%	25.6%	13.3%	37.5%	27.9%	40.5%	81
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 25) 【意見申立をした大学のみ】本協会と認識の共有を図ることができた。

→ (2021年度は、「【意見申立をした大学のみ】」の文言をはずし、選択肢に「申立をしていない」を追加) (2022年度以降この設問は削除)

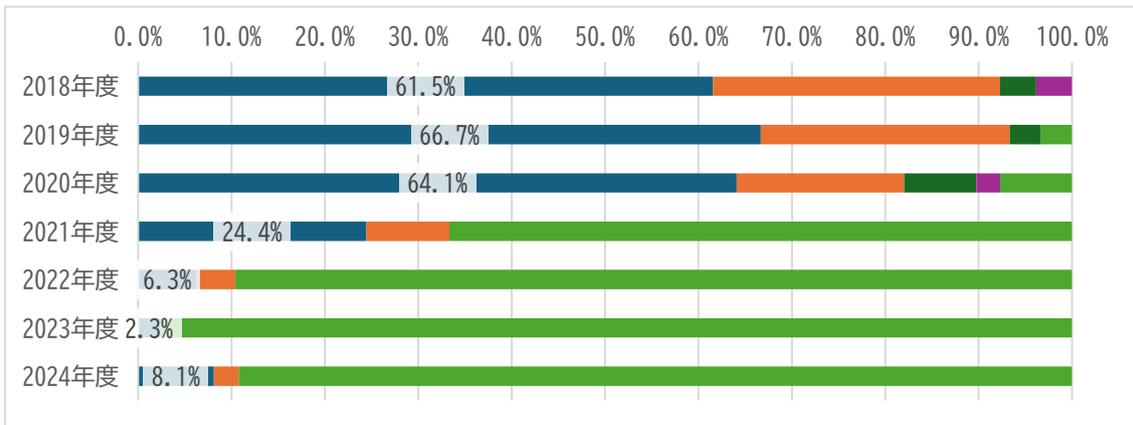
	1	2	3	4	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
そう思う※	30.8%	20.0%	35.9%	35.6%	44
おおむねそう思う	15.4%	30.0%	17.9%	37.8%	37
どちらとも言えない	19.2%	3.3%	17.9%	8.9%	17
あまりそう思わない	3.8%	3.3%	2.6%	2.2%	4
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	1
未回答※2	30.8%	43.3%	25.6%	13.3%	37
計	26	30	39	45	140



4) 異議申立制度

(設問 26) 【異議申立をした大学のみ】 制度の仕組みは、適切である。(2022 年度まで (設問 27)
 →(2021 年度は【異議申立をした大学のみ】の文言をはずし、選択肢に「申立をしていない」を追加))

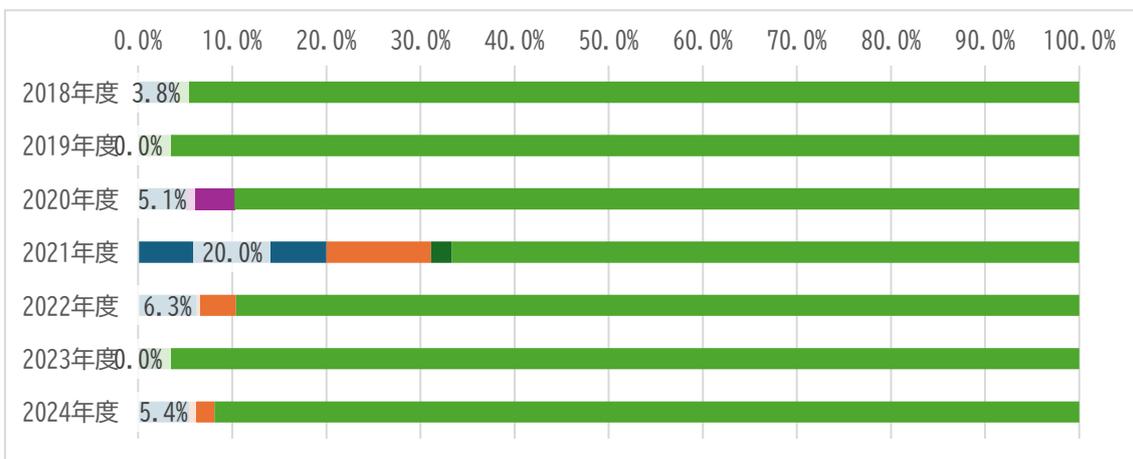
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	61.5%	66.7%	64.1%	24.4%	6.3%	2.3%	8.1%	79
おおむねそう思う	30.8%	26.7%	17.9%	8.9%	4.2%	0.0%	2.7%	30
どちらとも言えない	3.8%	3.3%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
そう思わない	3.8%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2
未回答※2	0.0%	3.3%	7.7%	66.7%	89.6%	97.7%	89.2%	152
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 27) 【異議申立をした大学のみ】 異議申立に対する本協会の対応は、適切であった。
 (2022 年度まで (設問 28))

→(2021 年度は【異議申立をした大学のみ】の文言をはずし、選択肢に「申立をしていない」を追加)

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	3.8%	0.0%	5.1%	20.0%	6.3%	0.0%	5.4%	17
おおむねそう思う	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	4.2%	0.0%	2.7%	8
どちらとも言えない	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	2.3%	0.0%	2
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
そう思わない	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2
未回答※2	96.2%	100.0%	89.7%	66.7%	89.6%	97.7%	91.9%	239
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(2021 年度まで (設問 29)) 【異議申立をした大学のみ】 本協会と認識の共有を図ることができた。

(2022 年度以降この設問は削除)

→ (2021 年度は、「【異議申立をした大学のみ】」の文言をはずし、選択肢に「申立をしていない」を追加)

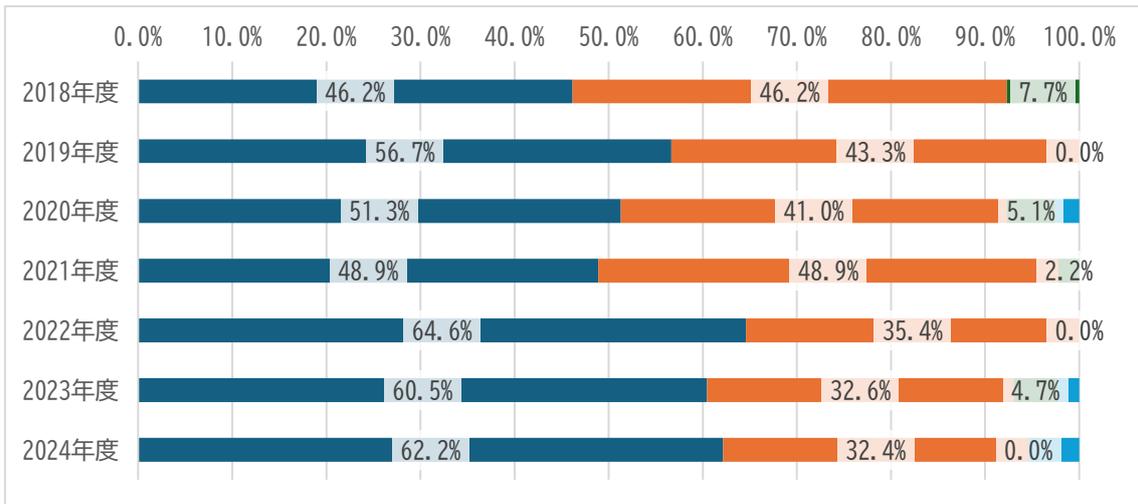
	1	2	3	4	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
該当する	3.8%	0.0%	5.1%	22.2%	13
おおむね該当する	0.0%	0.0%	0.0%	8.9%	4
どちらとも言えない	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	1
あまり該当しない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
該当しない	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	2
未回答※2	96.2%	100.0%	89.7%	66.7%	120
計	26	30	39	45	140



5) 大学評価結果

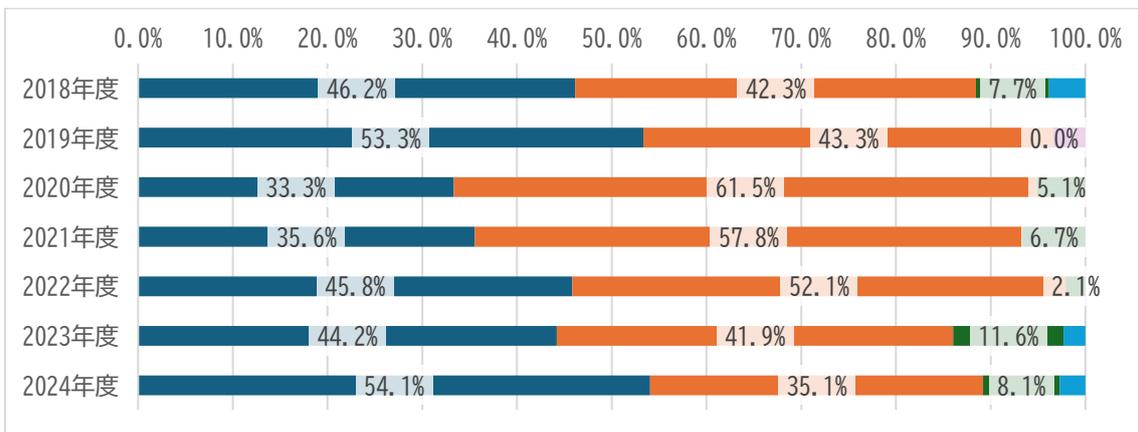
(設問 29) 内容は、理解しやすかった。(2021 年度まで (設問 31))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	46.2%	56.7%	51.3%	48.9%	64.6%	60.5%	62.2%	151
おおむねそう思う	46.2%	43.3%	41.0%	48.9%	35.4%	32.6%	32.4%	106
どちらとも言えない	7.7%	0.0%	5.1%	2.2%	0.0%	4.7%	0.0%	7
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	2.3%	5.4%	4
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



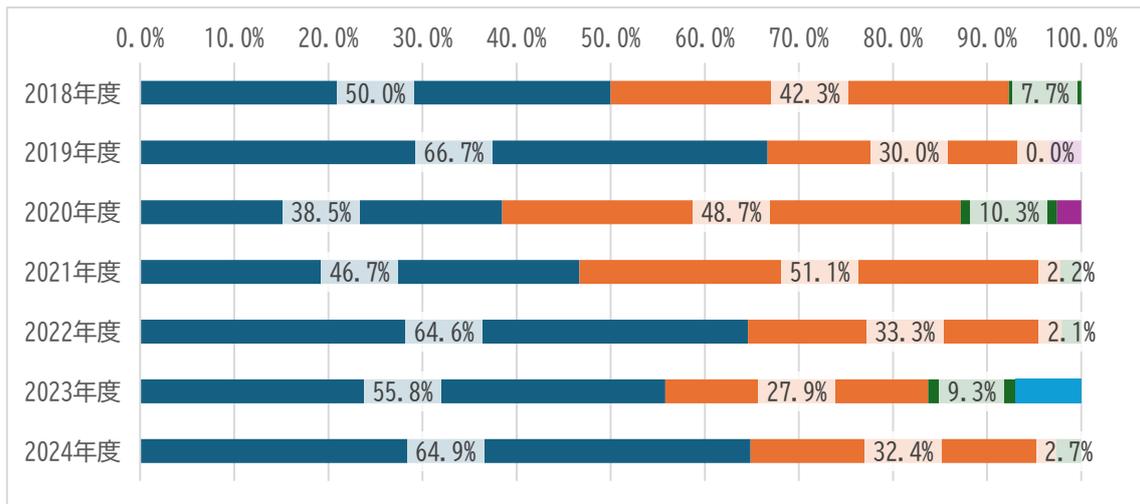
(設問 30) 貴大学の取組みを適切に捉えていた。(2021 年度まで (設問 32))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	46.2%	53.3%	33.3%	35.6%	45.8%	44.2%	54.1%	118
おおむねそう思う	42.3%	43.3%	61.5%	57.8%	52.1%	41.9%	35.1%	130
どちらとも言えない	7.7%	0.0%	5.1%	6.7%	2.1%	11.6%	8.1%	16
あまりそう思わない	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	2.7%	3
そう思わない	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



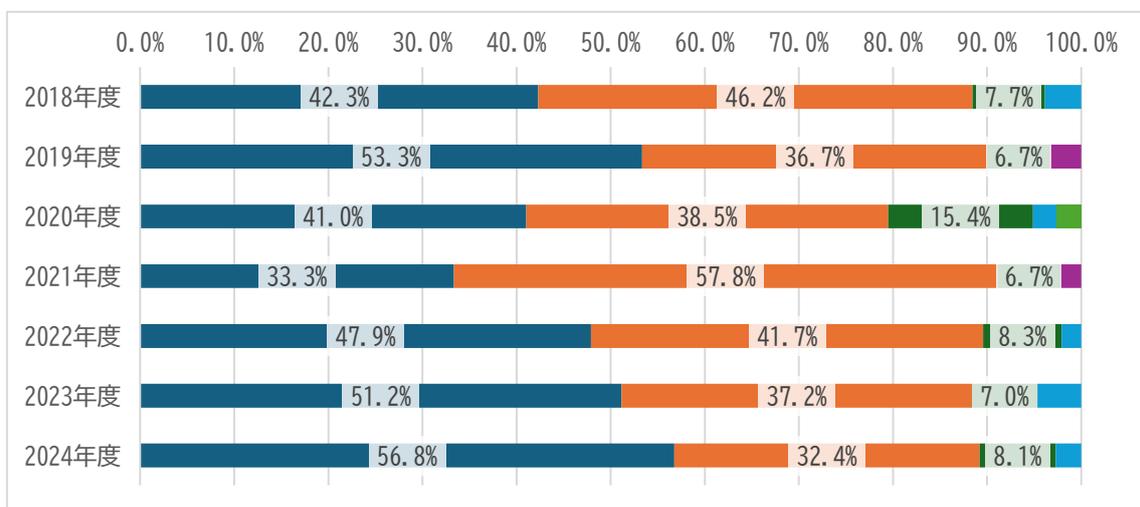
(設問 31) 提言（長所）は、貴大学の長所を適切に捉えていた。(2021 年度まで (設問 33))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	50.0%	66.7%	38.5%	46.7%	64.6%	55.8%	64.9%	148
おおむねそう思う	42.3%	30.0%	48.7%	51.1%	33.3%	27.9%	32.4%	102
どちらとも言えない	7.7%	0.0%	10.3%	2.2%	2.1%	9.3%	2.7%	13
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.0%	0.0%	3
そう思わない	0.0%	3.3%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 32) 提言（改善課題・是正勧告）は、貴大学の課題を適切に捉えていた。
(2021 年度まで (設問 34))

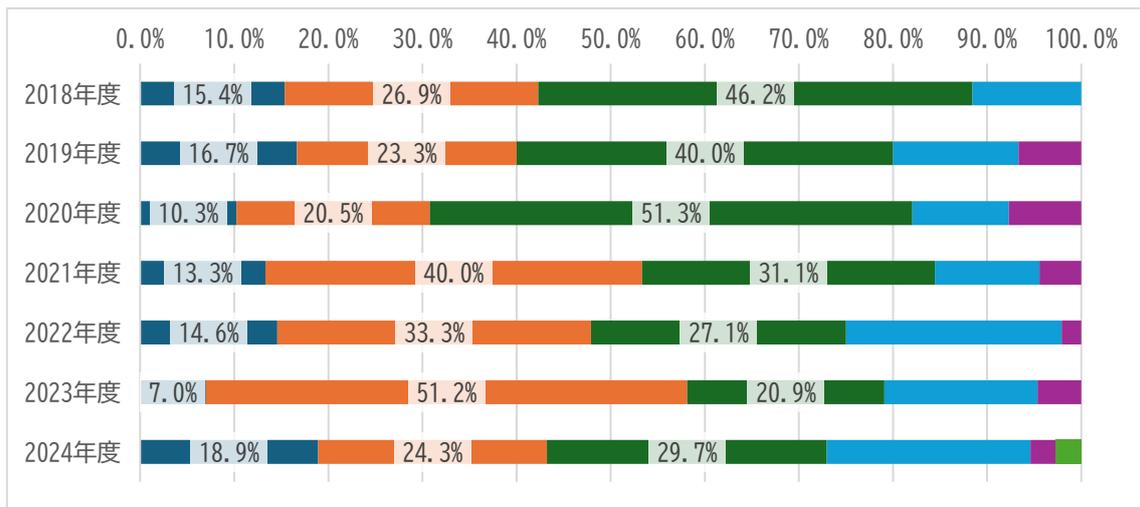
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	42.3%	53.3%	41.0%	33.3%	47.9%	51.2%	56.8%	124
おおむねそう思う	46.2%	36.7%	38.5%	57.8%	41.7%	37.2%	32.4%	112
どちらとも言えない	7.7%	6.7%	15.4%	6.7%	8.3%	7.0%	8.1%	23
あまりそう思わない	3.8%	0.0%	2.6%	0.0%	2.1%	4.7%	2.7%	6
そう思わない	0.0%	3.3%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2
未回答	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
計	26	30	39	45	48	43	37	268



6) 全般的事項

(設問 34) 貴大学側の作業量は、適切であった。(2021 年度まで (設問 36))

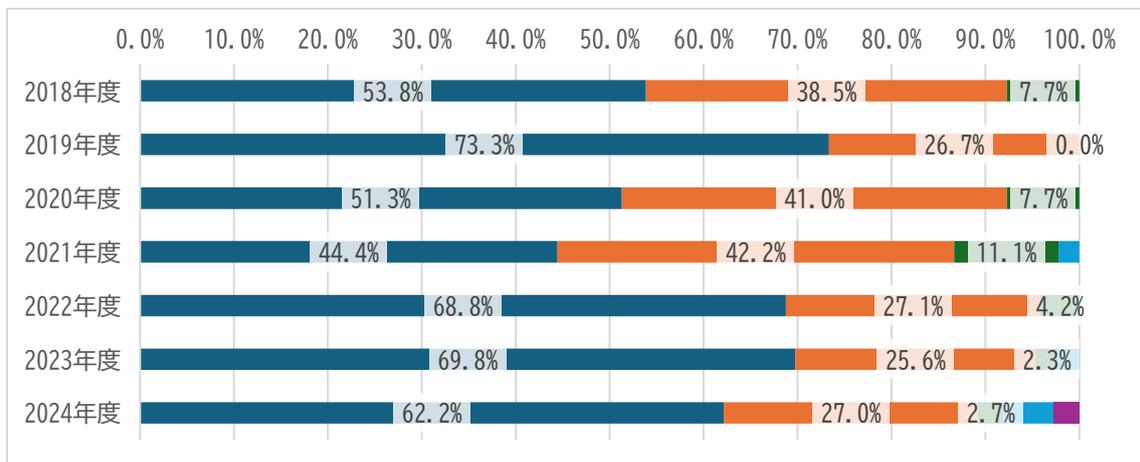
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	15.4%	16.7%	10.3%	13.3%	14.6%	7.0%	18.9%	36
おおむねそう思う	26.9%	23.3%	20.5%	40.0%	33.3%	51.2%	24.3%	87
どちらとも言えない	46.2%	40.0%	51.3%	31.1%	27.1%	20.9%	29.7%	91
あまりそう思わない	11.5%	13.3%	10.3%	11.1%	22.9%	16.3%	21.6%	42
そう思わない	0.0%	6.7%	7.7%	4.4%	2.1%	4.7%	2.7%	11
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	1
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 35) 本協会事務局の対応は、適切であった。(2021 年度まで (設問 37))

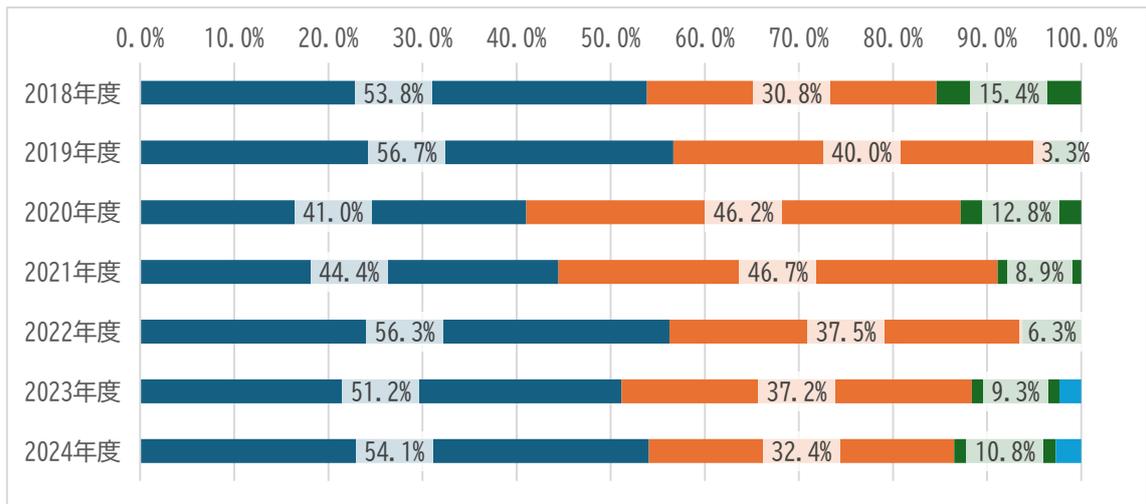
→ (2021 年度までの設問) 本協会事務局のサポートは、適切であった。

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	53.8%	73.3%	51.3%	44.4%	68.8%	69.8%	62.2%	162
おおむねそう思う	38.5%	26.7%	41.0%	42.2%	27.1%	25.6%	27.0%	87
どちらとも言えない	7.7%	0.0%	7.7%	11.1%	4.2%	2.3%	2.7%	14
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	2.3%	5.4%	4
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 36) 評価者の構成は、適切であった。(2021 年度まで (設問 38))

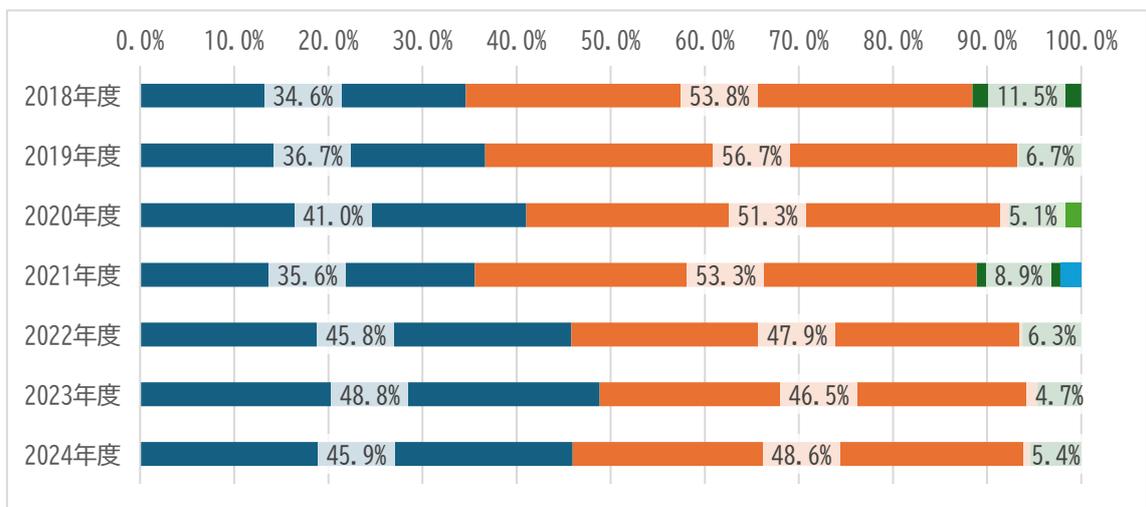
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	53.8%	56.7%	41.0%	44.4%	56.3%	51.2%	54.1%	136
おおむねそう思う	30.8%	40.0%	46.2%	46.7%	37.5%	37.2%	32.4%	105
どちらとも言えない	15.4%	3.3%	12.8%	8.9%	6.3%	9.3%	10.8%	25
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	2.7%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 37) 本協会のフォローアップ (改善報告等) の仕組みは、十分である。

(2021 年度まで (設問 39))

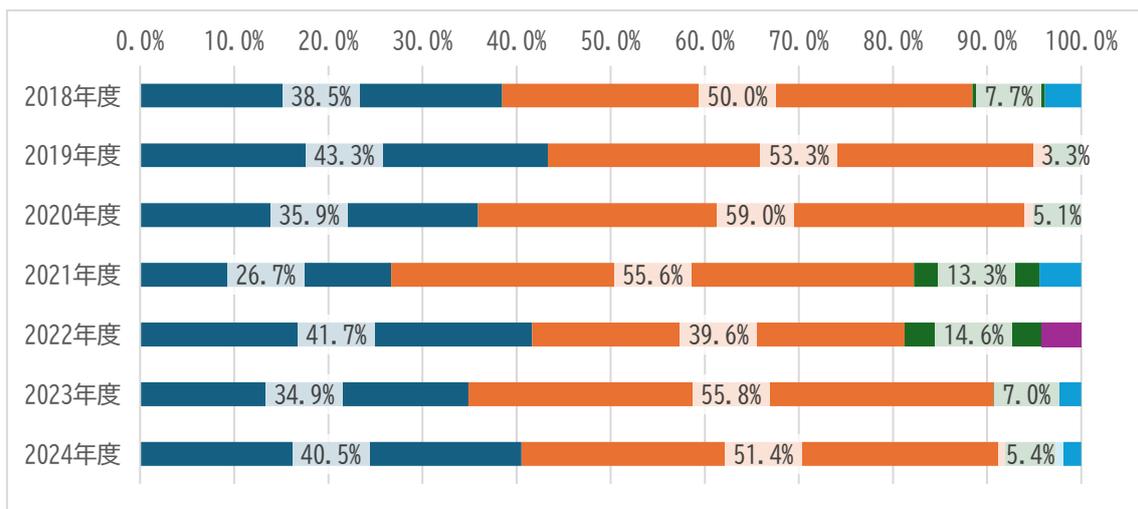
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	34.6%	36.7%	41.0%	35.6%	45.8%	48.8%	45.9%	112
おおむねそう思う	53.8%	56.7%	51.3%	53.3%	47.9%	46.5%	48.6%	136
どちらとも言えない	11.5%	6.7%	5.1%	8.9%	6.3%	4.7%	5.4%	18
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 38) 本協会の設定する大学評価の実施方法及びスケジュール等は、適切であった。

(2021 年度まで (設問 40))

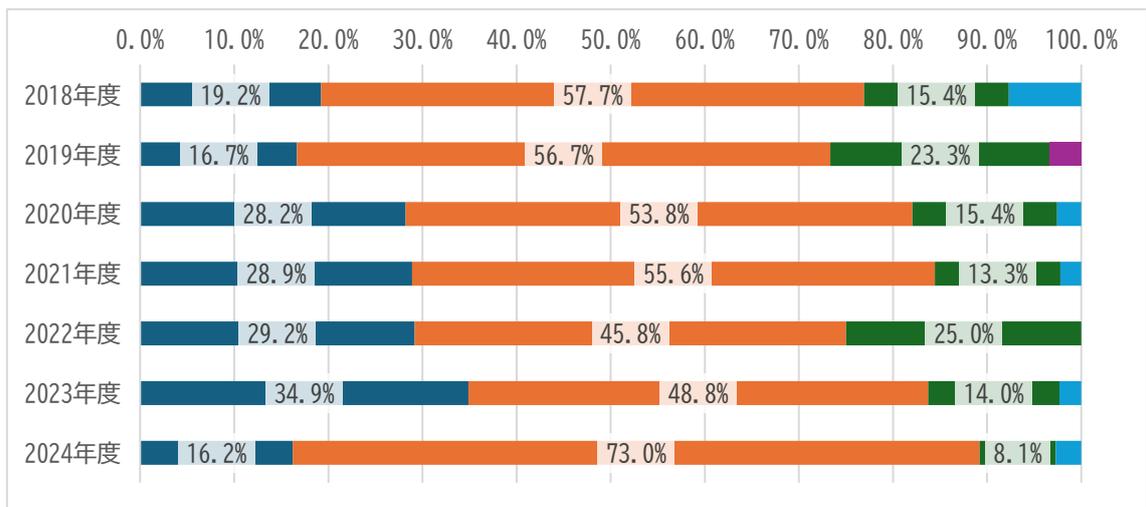
	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	38.5%	43.3%	35.9%	26.7%	41.7%	34.9%	40.5%	99
おおむねそう思う	50.0%	53.3%	59.0%	55.6%	39.6%	55.8%	51.4%	139
どちらとも言えない	7.7%	3.3%	5.1%	13.3%	14.6%	7.0%	5.4%	23
あまりそう思わない	3.8%	0.0%	0.0%	4.4%	0.0%	2.3%	2.7%	5
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	2
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(2) 大学評価前の自己点検・評価活動による効果

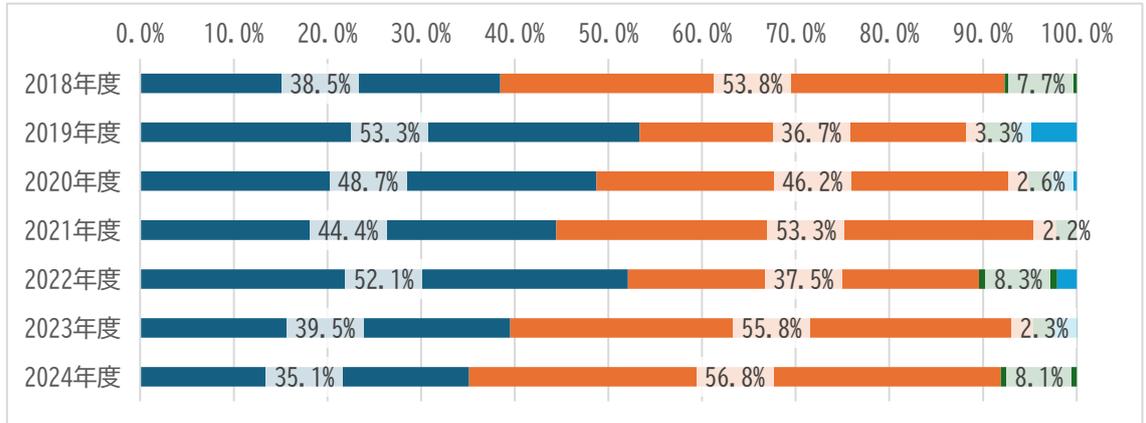
(設問 40) 自己点検・評価活動の実施意義が教職員に浸透した。(2021 年度まで (設問 42))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	19.2%	16.7%	28.2%	28.9%	29.2%	34.9%	16.2%	69
おおむねそう思う	57.7%	56.7%	53.8%	55.6%	45.8%	48.8%	73.0%	148
どちらとも言えない	15.4%	23.3%	15.4%	13.3%	25.0%	14.0%	8.1%	44
あまりそう思わない	7.7%	0.0%	2.6%	2.2%	0.0%	2.3%	2.7%	6
そう思わない	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



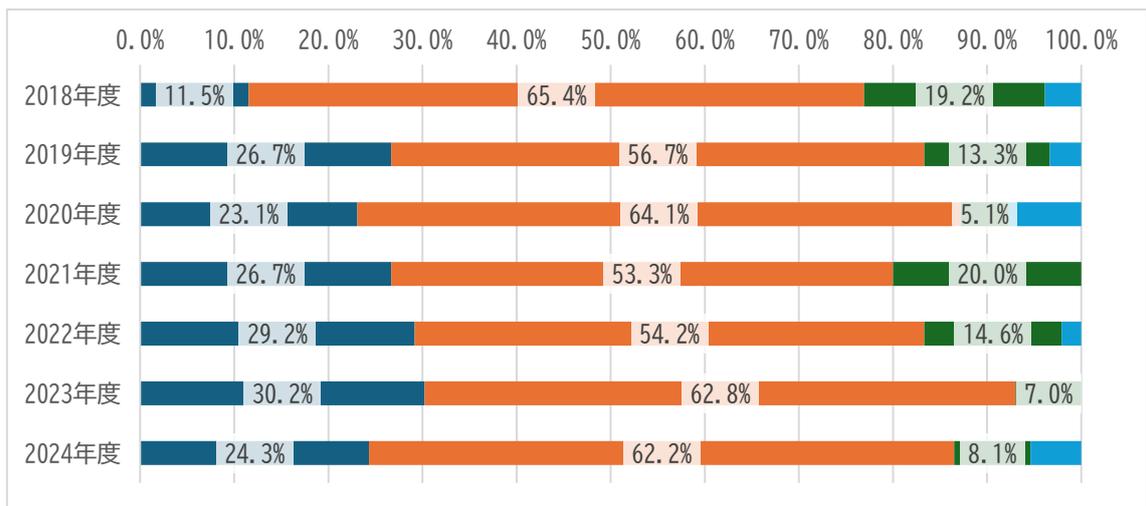
(設問 41) 内部質保証システムの改善・充実に取り組むことができた。(2021 年度まで (設問 43))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	38.5%	53.3%	48.7%	44.4%	52.1%	39.5%	35.1%	120
おおむねそう思う	53.8%	36.7%	46.2%	53.3%	37.5%	55.8%	56.8%	130
どちらとも言えない	7.7%	3.3%	2.6%	2.2%	8.3%	2.3%	8.1%	13
あまりそう思わない	0.0%	6.7%	2.6%	0.0%	2.1%	2.3%	0.0%	5
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



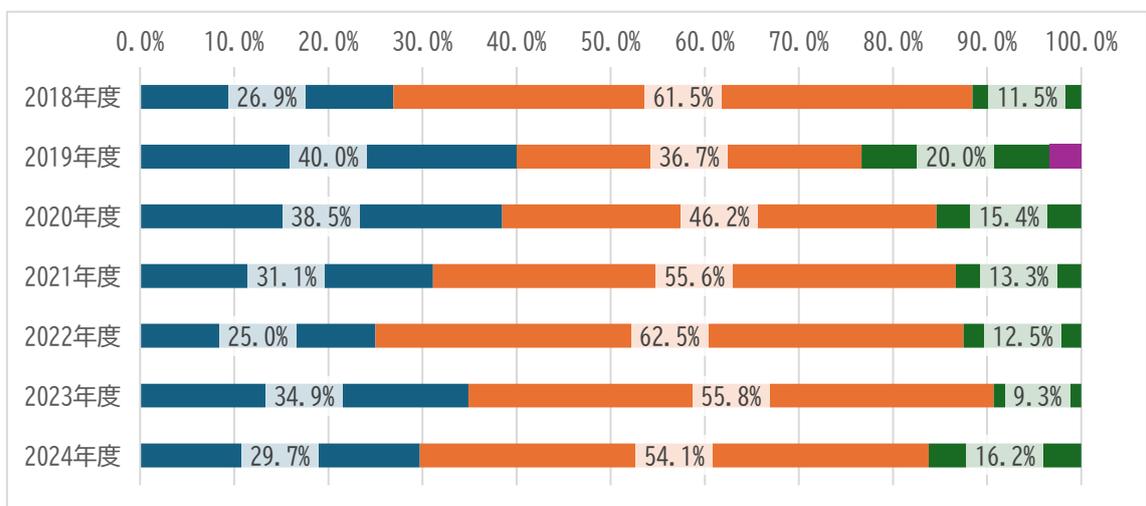
(設問 42) 内部質保証に関する教職員の理解が深まった。(2021 年度まで (設問 44))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	11.5%	26.7%	23.1%	26.7%	29.2%	30.2%	24.3%	68
おおむねそう思う	65.4%	56.7%	64.1%	53.3%	54.2%	62.8%	62.2%	159
どちらとも言えない	19.2%	13.3%	5.1%	20.0%	14.6%	7.0%	8.1%	33
あまりそう思わない	3.8%	3.3%	7.7%	0.0%	2.1%	0.0%	5.4%	8
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



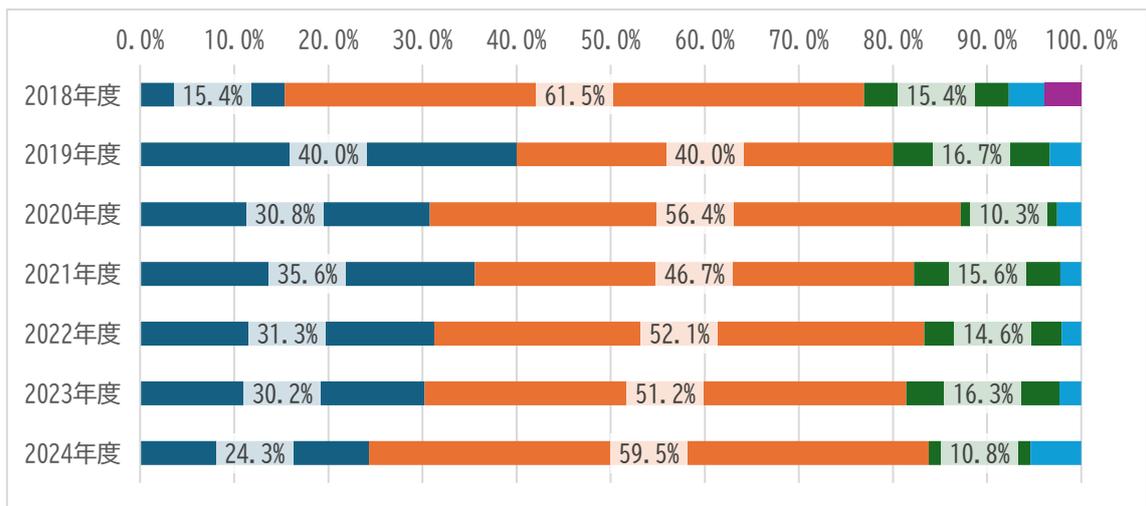
(設問 43) 貴大学の諸活動に対する学内連携や情報共有が促進された。(2021 年度まで (設問 45))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	26.9%	40.0%	38.5%	31.1%	25.0%	34.9%	29.7%	86
おおむねそう思う	61.5%	36.7%	46.2%	55.6%	62.5%	55.8%	54.1%	144
どちらとも言えない	11.5%	20.0%	15.4%	13.3%	12.5%	9.3%	16.2%	37
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
そう思わない	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



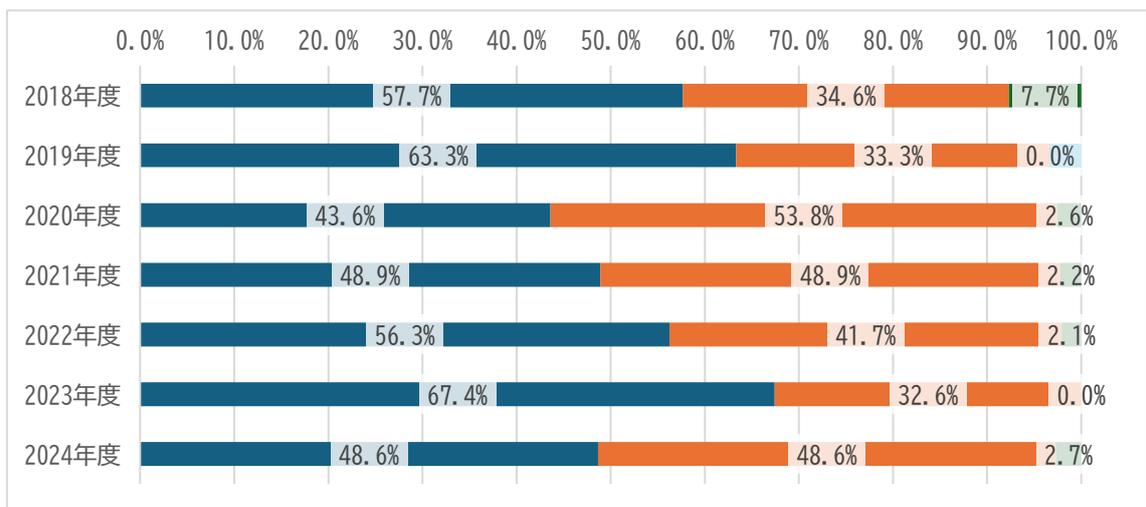
(設問 44) 将来計画の策定等に役立った。(2021 年度まで (設問 46))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	15.4%	40.0%	30.8%	35.6%	31.3%	30.2%	24.3%	81
おおむねそう思う	61.5%	40.0%	56.4%	46.7%	52.1%	51.2%	59.5%	140
どちらとも言えない	15.4%	16.7%	10.3%	15.6%	14.6%	16.3%	10.8%	38
あまりそう思わない	3.8%	3.3%	2.6%	2.2%	2.1%	2.3%	5.4%	8
そう思わない	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



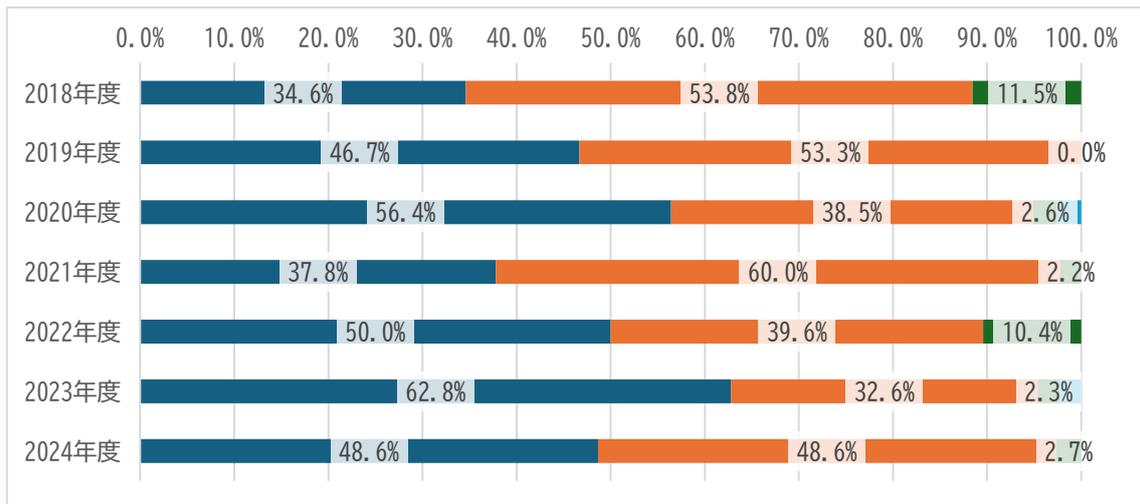
(設問 45) 課題が明確になった。(2021 年度まで (設問 47))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	57.7%	63.3%	43.6%	48.9%	56.3%	67.4%	48.6%	147
おおむねそう思う	34.6%	33.3%	53.8%	48.9%	41.7%	32.6%	48.6%	114
どちらとも言えない	7.7%	0.0%	2.6%	2.2%	2.1%	0.0%	2.7%	6
あまりそう思わない	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



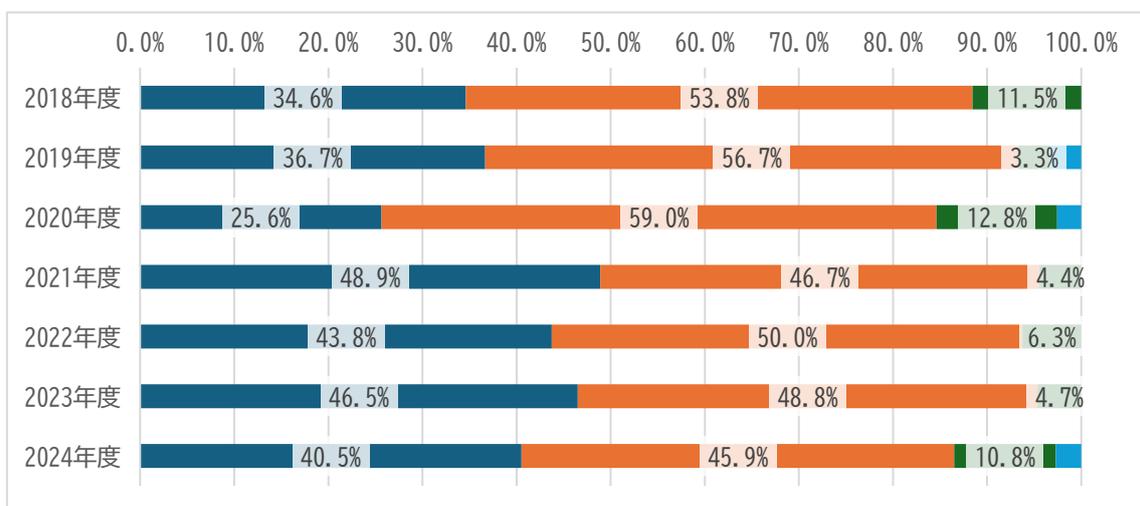
(設問 46) 明確になった課題への改善に取り組むようになった。(2021 年度まで (設問 48))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	34.6%	46.7%	56.4%	37.8%	50.0%	62.8%	48.6%	131
おおむねそう思う	53.8%	53.3%	38.5%	60.0%	39.6%	32.6%	48.6%	123
どちらとも言えない	11.5%	0.0%	2.6%	2.2%	10.4%	2.3%	2.7%	12
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	2
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



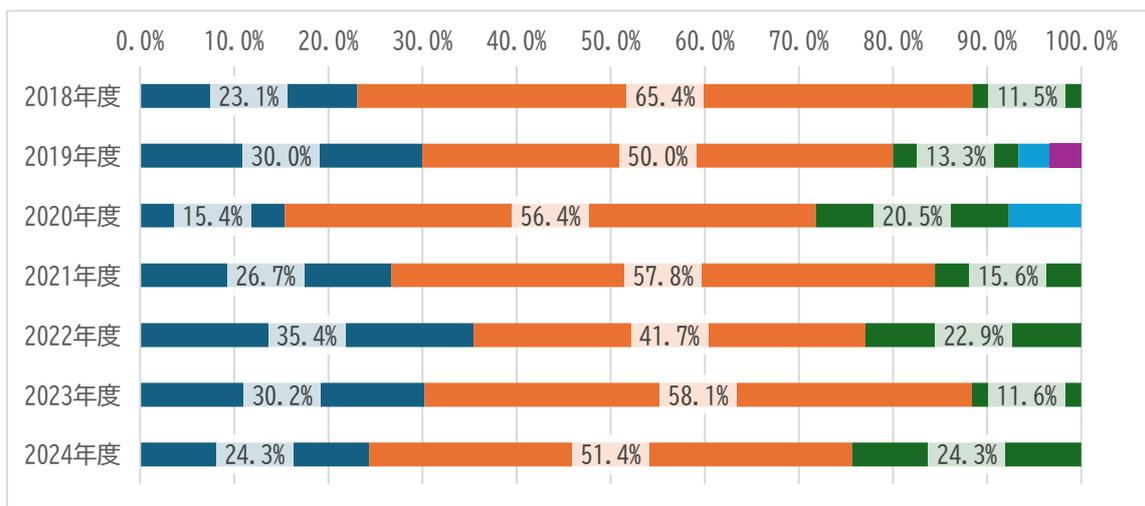
(設問 47) 成果を出している取組みが明確になった。(2021 年度まで (設問 49))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	34.6%	36.7%	25.6%	48.9%	43.8%	46.5%	40.5%	108
おおむねそう思う	53.8%	56.7%	59.0%	46.7%	50.0%	48.8%	45.9%	137
どちらとも言えない	11.5%	3.3%	12.8%	4.4%	6.3%	4.7%	10.8%	20
あまりそう思わない	0.0%	3.3%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	3
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



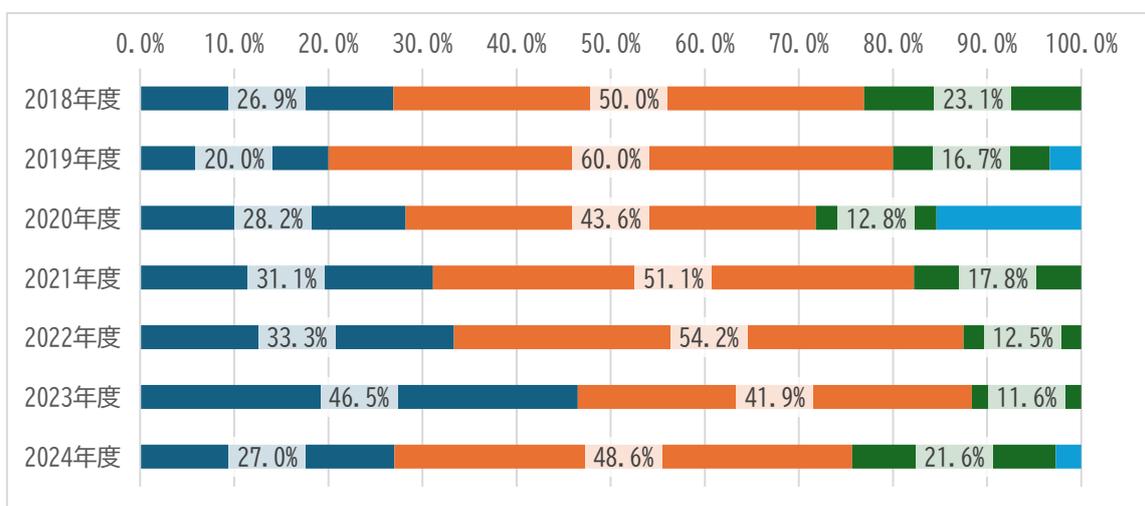
(設問 48) 明確になった成果を出している取組みに一層積極的に取り組むようになった。
(2021 年度まで (設問 50))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	23.1%	30.0%	15.4%	26.7%	35.4%	30.2%	24.3%	72
おおむねそう思う	65.4%	50.0%	56.4%	57.8%	41.7%	58.1%	51.4%	144
どちらとも言えない	11.5%	13.3%	20.5%	15.6%	22.9%	11.6%	24.3%	47
あまりそう思わない	0.0%	3.3%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4
そう思わない	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



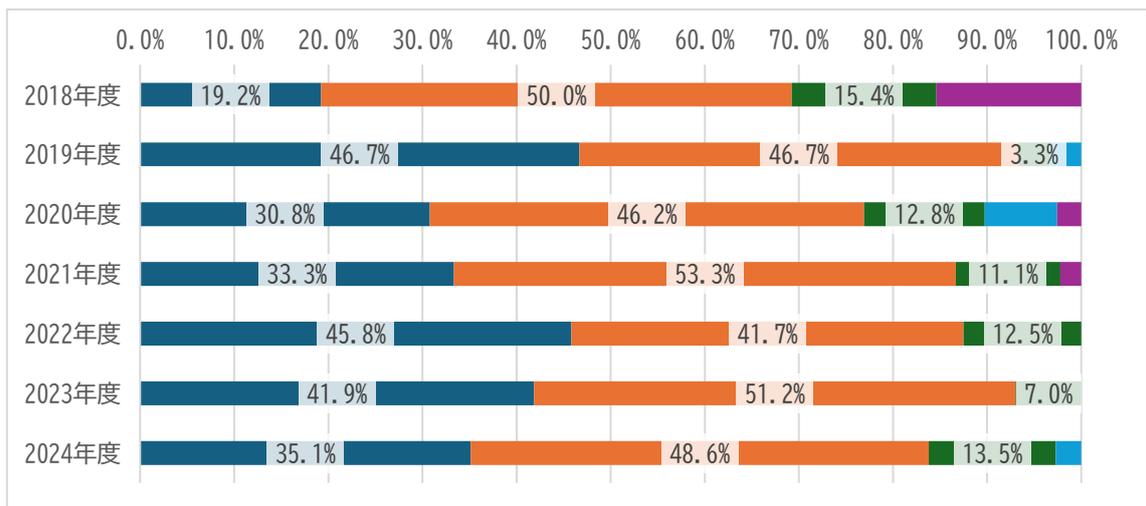
(設問 49) ステークホルダーに対する説明責任を果たすことができた。(2021 年度まで (設問 51))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	26.9%	20.0%	28.2%	31.1%	33.3%	46.5%	27.0%	84
おおむねそう思う	50.0%	60.0%	43.6%	51.1%	54.2%	41.9%	48.6%	133
どちらとも言えない	23.1%	16.7%	12.8%	17.8%	12.5%	11.6%	21.6%	43
あまりそう思わない	0.0%	3.3%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	8
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



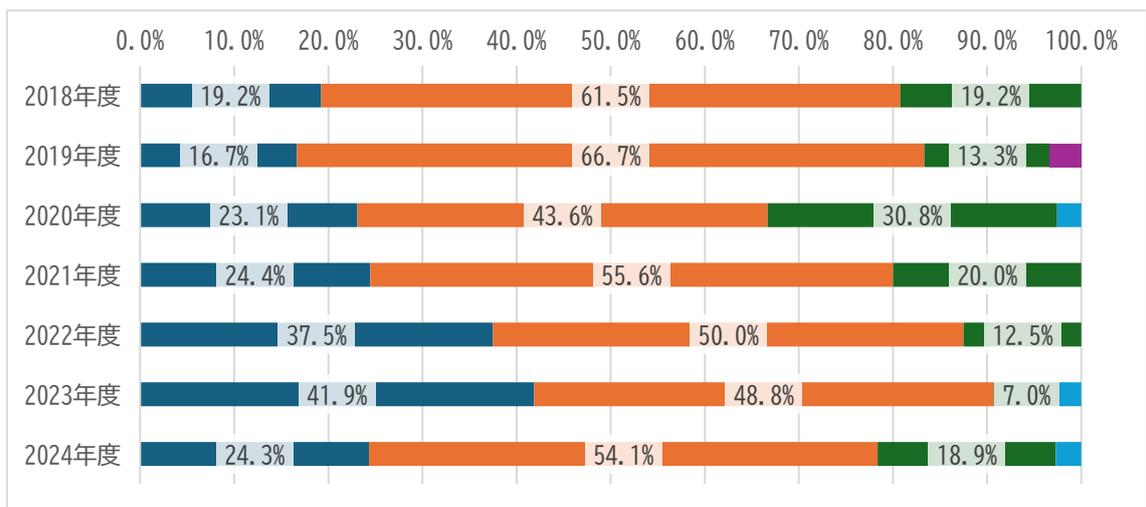
(設問 50) 外部評価等の客観的な視点を加えるようになった。(2021 年度まで (設問 52))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	19.2%	46.7%	30.8%	33.3%	45.8%	41.9%	35.1%	99
おおむねそう思う	50.0%	46.7%	46.2%	53.3%	41.7%	51.2%	48.6%	129
どちらとも言えない	15.4%	3.3%	12.8%	11.1%	12.5%	7.0%	13.5%	29
あまりそう思わない	0.0%	3.3%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	5
そう思わない	15.4%	0.0%	2.6%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	6
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



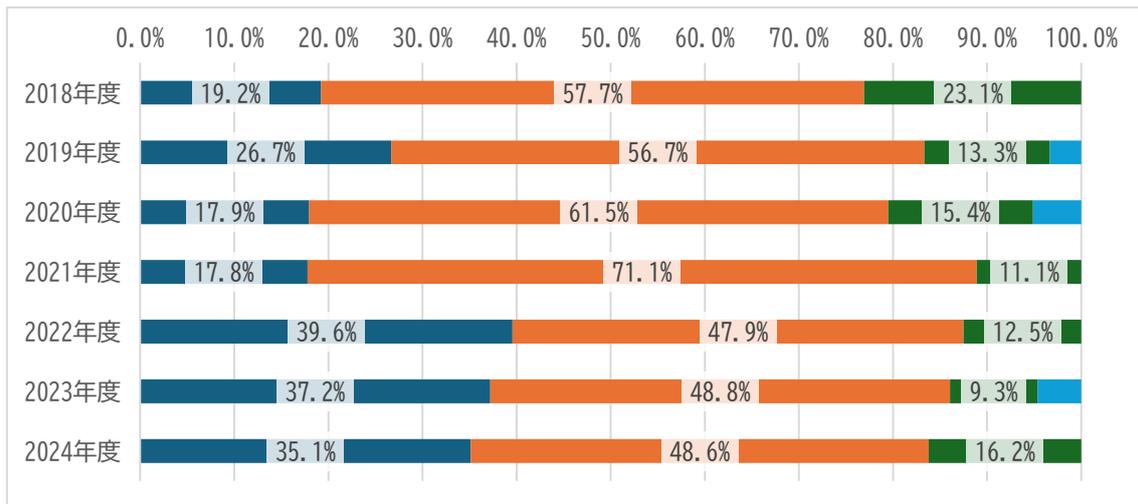
(設問 51) 貴学が考えるステークホルダーに対し、教育の質が保証できた。(2021 年度まで (設問 53))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	19.2%	16.7%	23.1%	24.4%	37.5%	41.9%	24.3%	75
おおむねそう思う	61.5%	66.7%	43.6%	55.6%	50.0%	48.8%	54.1%	143
どちらとも言えない	19.2%	13.3%	30.8%	20.0%	12.5%	7.0%	18.9%	46
あまりそう思わない	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	2.3%	2.7%	3
そう思わない	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



(設問 52) 教育の質の向上につながった。(2021 年度まで (設問 54))

	1	2	3	4	5	6	7	計
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
そう思う※	19.2%	26.7%	17.9%	17.8%	39.6%	37.2%	35.1%	76
おおむねそう思う	57.7%	56.7%	61.5%	71.1%	47.9%	48.8%	48.6%	150
どちらとも言えない	23.1%	13.3%	15.4%	11.1%	12.5%	9.3%	16.2%	37
あまりそう思わない	0.0%	3.3%	5.1%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%	5
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
未回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0
計	26	30	39	45	48	43	37	268



2 アンケートにおける自由記述まとめ

有効性調査の自由記述項目から、今後の大学評価の改善に資する示唆を下記に掲げる。

(1) 大学評価の実施プロセス、体制等

1) 事前準備

(設問2) 『大学評価ハンドブック』の内容は、大学評価の申請準備に役立った。

- ・『大学評価ハンドブック』は多くの情報が掲載されていて自己点検・評価を行う上で有用であったが、大部過ぎて使いにくい面もあった。
- ・端的に要点がまとめられた資料を提示し、大学が認証評価や点検・評価を、より日常的な取り組みに落とし込めるような内容にしてもらいたい

(設問3) 「『大学基準』及びその解説」(『大学評価ハンドブック』資料1)の内容は、自己点検・評価を行う基準として適切であった。

- ・現状では抽象的な部分もあり、大学側での解釈が異なる場合がある。より丁寧な説明を要すると考える。
- ・「大学の機能別分化」が謳われ、大学毎の立ち位置や特色を打ち出すことが重視されることを踏まえ、独自性を重視しつつ、研究等への取り組みや国際性、人材輩出など、大学がもつべき機能全体を俯瞰的に評価する基準の検討が、ひいては大学の実質的な評価につながるのではないかと考えられる。

(設問4) 「点検・評価項目」(『大学評価ハンドブック』資料2)の内容は、自己点検・評価を行う枠組みとして適切であった。

- ・「点検・評価項目」は自己点検・評価を行う枠組みとして活用しており、その内容は適切だと考えるが、基準2「内部質保証」とは別に、各基準の点検・評価項目において、「改善・向上に向けた取り組み」を記載するようになっていたため、重複した記載が多くなってしまったように感じた。
- ・基準8の内容が多岐に渡っており、施設・設備(ハード面)と教育研究活動支援(ソフト面)の2つの視点で分けてもよいと感じた。

(設問5a) 「評価の視点」(『大学評価ハンドブック』資料2)の内容は、「点検・評価項目」に基づき、大学自身の「評価の視点」を定めるための例示として適切であった。

- ・「評価の視点」について、作業量から言っても独自の評価の視点を定めることは難しく感じ、協会から示された例示をほとんどそのまま使用した。

・評価の視点等に「IR」を入れてはどうかと思った。また、内部質保証において教学以外のPDCAサイクルについてもわかりやすく評価の視点で触れたほうが理解が進むのではないかと感じた。

(設問5b)「点検・評価報告書 記述の注意点と根拠資料例(大学評価)」(『大学評価ハンドブック』資料6)は十分に活用することができた。(2022年度より設問追加)

・「点検・評価報告書 記述の注意点と根拠資料例(大学評価)」(『大学評価ハンドブック』資料6)、「評価に係る各種指針」(『大学評価ハンドブック』資料4)及び「判定の基準とその運用指針」(『大学評価ハンドブック』資料3)に関して、内容的に重複がある部分、また、同一項目でも別の切り口で記述されている部分、これらが3つの資料に分かれてまとめられていることに、やや使いづらさ(参照しにくさ)があった。

(設問7)「評定(S、A、B、C)基準」(『大学評価ハンドブック』29頁)は、評定を決定するための基準として適切である。

・評定によって、基準ごとの評価が明確になる反面、4段階のうち下位の評定については大学内において実態以上に否定的に受け止められる印象を持った。
・基準に関して、改善課題として抽出された一つの軽度の不備のみで、その他の長所を打ち消して判定がなされる仕組みになっている。各基準に対する総合的な評価を行う仕組みにした方がよいのではないかと考える。
・評定基準のSABCのうち、どのくらいの取組みであればS評価になるのかについて、大学評価ハンドブックの記載内容だけでは解釈が難しかった。

(設問8)「基礎要件に係る評価の指針」(『大学評価ハンドブック』資料4)の内容は、法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況を判断するための指針として適切である。

・認証評価の基礎要件として提示いただくことで、定期的な点検に明確な項目建てと評価視点を組み込むことができるので、大変ありがたい。
・「評価に係る各種指針」の法令要件以外の基礎的な要件について、基準や求められる水準が明確に示されていない項目があり、読み手によって解釈に幅が生じる可能性があるため、より具体的かつ明確に示していただきたい。

(設問10)本協会の提示した『大学基礎データ』の様式は、大学の状況を定量的に表すのに適切であった。

→(2021年度までの設問)本協会の提示した『大学基礎データ』の様式は、適切であった。

- ・「大学基礎データ」(表4)について、必修科目、選択科目及び自由科目による教育課程の編成という大学設置基準に準拠した様式とした方が適切であると感じた。
- ・大学基礎データについて、算出メモを要求するのであれば、あらかじめ様式5に入力シートを用意していただきたいと感じた。また、大学基礎データの作成例は、さらなる充実を期待する。
- ・学校基本調査や学校法人等基礎調査、大学ポートレート等、重複する内容があるため、簡素化できると事務負担がいつそう軽減できると考える。
- ・大学評価ハンドブックでは注記にしか説明がなかったため、具体的な入力例や完成形のイメージを提供していただけると、学内の関係部署に作業依頼をする際に説明がしやすくなる。
- ・「大学基礎データ」の作成にあたり、作成例だけでは疑問が解決できなかった部分があったため、これまで各大学から寄せられた問い合わせを踏まえたFAQがあるとありがたい。

(設問 11)『点検・評価報告書』の記述を裏付ける根拠資料を円滑に提出することができた。

- ・「根拠資料一覧」とは別に根拠資料としてウェブページを示したものを抜粋した根拠資料一覧を作成することとなっていたが、これは「根拠資料一覧」からウェブページにハイパーリンクを作成することで代替可能である。
- ・根拠資料としてどのようなものが必要なのか、また、適切なものは何かの判断に苦慮した。例などが具体的に示されていれば大変ありがたい。

(設問 12 a) 根拠資料を電子データで提出することは、その提出方法を含め適切であった。(2020年度まで(設問 12))

- ・根拠資料を電子データで提出することにより、業務の簡略化につながり、その分、提出すべき根拠資料の整理を適切に行うことができた。

(設問 12 b) 根拠資料の提出においてクラウド・ストレージを利用することは適切であった。(2020年度より設問追加)

- ・クラウド利用に関するセキュリティ面での説明が必要だと考える。

2) 実地調査

(設問 14) 実施時期（実施時期の決定方法を含む）は、適切であった。

- ・ 大学評価の年間スケジュールを考慮すると、9月から10月頃に実地調査を組まなくてはならないことも理解できるが、実地調査の事前準備（実施の5週間前）が学事暦上の夏期休暇と重なることは、学生の後期授業時間割が確定していないことから、学生インタビューの日程や人選に苦慮した。
- ・ 個別面談の面談者への出席依頼が休日の場合は難しいため、実地調査については平日に実施していただくとありがたい。
- ・ 日曜日の実施となった点については、教職員の対応に制限が生じ不便な点があった。
- ・ 評価員の方々が揃う日程を先に大学側へ知らせいただいた方がスムーズであると思われる。
- ・ 複数の候補日を示していただき、大学側で選定できると良かった。秋学期開講第1週目になってしまい、教職員・学生とも、授業と実地調査の間を調整するのが、大変であった。

(設問 15 a) 日数（2日間）は、適切であった。（2022年度まで（設問 15））

- ・ 運営方法・内容の効率化が図れば、1日でも内容的に対応可能ではないか。

(設問 16) プログラム構成（全体面談、個別面談、学生インタビュー）は、適切であった。

- ・ 短い時間の中に2つのテーマが設定されている個別面談があったが、当日は、2つ目のテーマについては、時間の都合等で面談が行われなかったため。分科会においては、十分に検討したうえでテーマと時間を設定していただいていると考えているが、実地調査当日の面談中の時間の管理にも、配慮いただきたい。
- ・ 全体面談や学生インタビューは評価結果分科会案の内容について確認されることが予想されるため、対応しやすかったが、個別面談のテーマが具体的ではないものがあったため、本学側の出席者の選出や出席者に対する説明が非常に困難であった。
- ・ 施設見学でその見学場所（ハイブリッド教室と図書館）を希望した理由や、何を重点的に見たいかが分からなかったため、短い時間の中で案内することが難しかった。
- ・ 大学の規模、キャンパスの数などで実地調査の方法や日数なども柔軟に対応いただきたい。第3期では実地調査は本部キャンパスのみを訪問することになっているが、本部キャンパス以外のキャンパスについても、大学の希望に応じて訪問していただき、現場の学生や教職員との意見交換をお願いしたい。

(設問 17) 各プログラムの時間配分は、適切であった。

- ・ 2日目の最後の全体面談に時間がかかってしまい、評価委員会委員の先生方との意見交換する時間が少ないように感じた。

(設問 18) 1 日目の全体面談において設けられた学長によるプレゼンテーションにより、大学の内部質保証に対する姿勢を提示することができた。

→ (2022 年度までの設問) 1 日目の全体面談において設けられたプレゼンテーションにより、大学の内部質保証に対する姿勢を提示することができた。

- ・学長によるプレゼンテーションは『点検・評価報告書』では表現しきれなかった点を補足でき本学の取組みや質問事項への回答の機会として活用することができ、その後の意見交換を円滑に進めることができたと思う。
- ・基準 2 内部質保証は大学によってさまざまな体制やプロセスがあることを考えると「学長プレゼンテーション」という形ではなく、全体面談の前に「内部質保証の体制と改善プロセス」を大学側が説明し、評価者が各大学の改善サイクルを確認する時間を設けてから、全体面談に入った方が評価者の理解も高まるのではないかと感じた。

(設問 19) 2 日目の全体面談において、大学のさらなる発展のために有益な意見交換を行うことができた。

- ・評価者は基準に照らした評価を行おうとするため当然の結果であるが、独自性を重視する大学としては根本から相容れず、参考にはなったが、建設的な意見交換にはつながらなかった。改善の方向性を具体的にイメージできないまま、意見交換が終わってしまった感がある。
- ・意見交換というよりも、質疑応答が多く交わされたように思われる。教育の質保証が大学としての本道だと思うが、この点について意見交換ができなかった。
- ・書面評価時に生じた疑問点を解消するための質疑応答のみが行なわれた。
- ・想定していた内容と異なる部分があり、そういったミスマッチが起こらないように面談に係る要望をしっかりと大学側にわかるように記載いただきたいと感じた。
- ・全体面談は他の評価基準も含め口頭での説明が主となるため、評価者からの質問に対してその都度資料を提示しながら説明することができず、効率的な説明が難しいと感じている。

(設問 20) 評価者の姿勢・態度は、適切であった。

- ・一部の評価者の方から、ご自身の所属大学を基準とした評価意見がなされていたように感じた。

(設問 21) 評価者と適切に意見交換をすることができた。

- ・評価者の所属校と本学の仕組みに異なる点がある場合、本質的な理解を得るところまで到達するのに時間を要した。わかりやすいモデルが必ずしも教育の質を担保するものとは限らないのではないかと感じるがあった。
- ・自由意見交換をする時間が設けられるとよかった。

- ・評価者は十分内容を理解し、それぞれある程度納得できる意見等を述べていただいた。
- ・外部的観点から、本学の課題について有益な意見をうかがえた。
- ・面談における質問の意図が理解しづらく、適切に回答・説明できなかった部分があった。評価委員の意見が本学委員会の委員の重複等といった大規模大学を想定しているものもあり、若干違和感があった。
- ・評価者と直接対面して意見交換を行うことができ、「大学評価(認証評価)結果(分科会案)」に明記された質問事項の意図などもよく理解できた。
- ・各評価委員と本音で各問題点について討議出来たことは今後の本学の教育についての有り方を見定めるに大いに役立った。

3) 意見申立制度

(設問 23) 意見申立の対象となる事項等や制度は、適切である。

→ (2020 年度までの設問) 制度の仕組みは、適切である。

- ・「誤字脱字」と「意見申立」の区がつきにくい場合があるため、予め「意見申立」「誤字脱字」とも原案の段階において事務局で精査の上、申請大学に対して適切か否かをフィードバックしていただいていたどうか。
- ・本学の現状認識と、意見申立にたいする大学基準協会からの回答とに隔たりがあったため、意見申立にたいし、直接意見交換ができる機会を設けていただきたい。

(設問 25) 【意見申立をした大学のみ】本協会と認識の共有を図ることができた。

→ (2021 年度は、「【意見申立をした大学のみ】」の文言をはずし、選択肢に「申立をしていない」を追加) (2022 年度以降この設問は削除)

- ・当方の意図が正確に伝わっているかがわからない。

4) 異議申立制度

※設問 26～29 に対する自由記述はなかった。

5) 大学評価結果

(設問 29) 内容は理解しやすかった。(2022 年度まで(設問 31))

- ・ 認証評価の一連の評価サイクルの中で「是正勧告」や「改善課題」が付された項目について、貴協会の通知を大学評価ハンドブックに照らしても具体的に何がどのように問題なのか掴みかねる場合があります。貴協会と受審大学との間で認識を合わせる機会が制度的にあれば尚良いと思う。

(設問 30) 貴大学の取組みを適切に捉えていた。(2022 年度まで(設問 32))

- ・ 本学ほど小規模な大学のことを十分配慮した評価になっているかという危惧が残る。
- ・ 各大学の主体的な仕組みに配慮すべきである。

(設問 31) 提言（長所）は、貴大学の長所を適切に捉えていた。(2021 年度まで (設問 33))

- ・ なぜ提言として長所を付けるに至らなかったのか、どのように発展させていくことで、また、成果を出していくことで、長所が付くような取組みとなるのか、意見交換を行うことができればありがたい。
- ・ 長所として評価を受けたことを所属内で共有し、担当者のモチベーションアップに活用する組織もあり、適切に長所や提言を捉えていただいたと感じている。

(設問 32) 提言（改善課題・是正勧告）は、貴大学の課題を適切に捉えていた。

(2022 年度まで(設問 34))

- ・ 指摘を受けたことにより改善課題が明確になった。さらに第三者へ説明できるための仕組みを再構築する取り組みを開始した。
- ・ 内部質保証の仕組みについては、各大学で異なるうえに複雑な面もあるため、当初現状と異なる改善課題が示された。限られた時間と状況の中で大学の状況を捉えていただくことの困難さを感じた。
- ・ 大学基準協会が、本当に指摘したかったことは、入学定員や収容定員の充足率なのかと疑問を持った。改善課題や是正勧告の中にも軽重をつけて説明していただく方が分かりやすいように思う

6) 全般的事項

(設問 34) 貴大学側の作業量は、適切であった。(2022 年度まで(設問 36))

- ・第1期及び第2期大学評価と比較して作業量は大幅に削減された。特に根拠資料の取り扱いについて、データをクラウド上に保存する方法の採用により、従来の紙媒体による提出方法と比較して大幅なコスト削減につながった。
- ・前回評価を受けた際よりも提出資料の電子データの割合が増え、紙資料の部数が減ったことにより負担が軽減したと感じた。一方で第3期の大学評価にあたっては、これまでと異なり内部質保証への取り組みが重要であったこともあり、前回受審時の資料はあまり参考にならず、根拠資料の作成準備には時間を要した。
- ・担当部署としての作業量は、適切な評価を行う上での妥当性・必要性は理解できるものの、負担が大きかった。
- ・実地調査前に受領した評価結果(分科会案)には、質問事項が多数あり、回答の作成および根拠資料を準備する期間が短かったこともあり、作業が大変だった。

(設問 35) 本協会事務局の対応は、適切であった。(2022 年度まで(設問 37))

→ (2022 年度まで) 本協会事務局のサポートは、適切であった。

- ・質問したことに丁寧に回答していただき、対応がよく、質問しやすかった一方で、誤字・脱字等も意見申立や字句修正の対象となることが多いため、内容について、慎重なご確認・ご校正をお願いできればと思う。

(設問 36) 評価者の構成は、適切であった。(2022 年度まで(設問 38))

- ・評価者の専門分野にやや偏りがみられ、また、評価者の所属大学と本学の規模感が異なっており、本学の状況を的確に理解していただけるか不安があった。

(設問 37) 本協会のフォローアップ(改善報告等)の仕組みは、十分である。

(2021 年度まで(設問 39))

- ・基本は自大学において改善すべき内容と水準を定め実行していくものであると考えているが、例えば、認証評価において提言が付された事項について、その後どのような改善と各大学が実施し成果を上げているのか、について提出された改善報告書の状況を取りまとめた報告会(勉強会)などを実施していただけると参考になり大変ありがたい。
- ・大学がどのように改善に向けて取り組んだのかをテーマにしたセミナーや会員同士が情報交換できる機会を設けていただくと、より一層各大学が改善に向けて積極的に取り組めるように思う。

(設問 40) 自己点検・評価活動の実施意義が教職員に浸透した。(2021 年度まで (設問 42))

- ・個別面談に責任者ではなく担当者レベルが出席したことで、あらゆる層の職員が自己点検・評価、内部質保証への理解を深めた一方で、「自己点検・評価報告書」において学部・研究科単位での記述が例にとどまり、実地調査においても、学部・研究科単位の面談がなかったことから、第2期と比較すると、教員への意識は深まらなかったと感じている。
- ・毎年度、自己点検・評価及び改善活動を行い、内部質保証を推進しているが、認証評価を受審することを活用して、内部質保証を学内に浸透させるための各種取り組みを強化した。
- ・認証評価の受審を通じて、学内各部局への根拠資料の取り寄せや確認等を行ったこと、実地調査前には質問事項の回答作成のために、内部質保証委員会での審議等を通じて、関連各部局の協力を得たこと等があり、学内における自己点検・評価活動の必然性や内部質保証について認識が浸透したと考えられる。
- ・本学では、認証評価結果を、その後の自己点検・評価に活かし、着実に改善に向けたPDCAが回せており、大きな効果を感じている。

(設問 41) 内部質保証システムの改善・充実に取り組むことができた。(2022 年度まで (設問 43))

- ・現在、評価結果や改善の必要性を学内に説明し、具体的かつ抜本的な改善策を立てている段階です。今回の評価をベースに強力に改善を進めるとともに、その動きが持続できるサステナブルな体制を構築したい考えである。

(設問 42) 内部質保証に関する教職員の理解が深まった。(2021 年度まで (設問 44))

- ・内部質保証に関して、教職員が理解を示すようになり、何が必要で、何を実施しなければならないかを身を持って感じ取ることが出来た。今後の本学の教育の質向上につながるものと思う。
- ・今回の大学評価に対応した教職員の間では内部質保証に対する理解が深まったと言える。今後は、全教職員への理解促進を図ることが本学の課題として認識している。

(設問 43) 貴大学の諸活動に対する学内連携や情報共有が促進された。(2022 年度まで (設問 45))

- ・認証評価や学外評価の機会を活用して本学の取組みを第三者へ説明を行うことで、客観的な視点から意見をいただくことができた。学外者が理解しにくいと感じた点は学内の諸活動においても関係者が理解しにくい点ととらえ、改善に役立てていきたい。

(設問 44) 将来計画の策定等に役立った。(2022 年度まで (設問 46))

- ・大学として継続的に中期計画の策定および検証を進めてきていることもあり、大学基準に基づく現在の状況に関する自己点検・評価は、大学の将来計画の策定との関係では間接的と考えている。

- ・本法人で次期中期計画を策定する際に大学評価において意見交換や指摘のあった箇所を改善することを視野に入れて策定することができたため。
- ・自己点検・評価の項目として、主にはガバナンス、質保証に係る事項であるため、将来計画の策定に直接的につながるものでなかった。
- ・今年度に予定している次期中期計画の策定において、指摘された改善課題や概評コメントを役立てていきたい。

(設問 45) 課題が明確になった。(2022 年度まで(設問 47))

- ・基準 4 に対する自学の状況に課題意識があったため、認証評価を契機に教学マネジメント、カリキュラムマネジメントの取り組みを加速的に進めることができたと認識している。
- ・認証評価の受審に向けては、自己点検・評価活動及び報告書の作成に高い精度で取り組んだことで、課題や成果を出している取り組みは明確となった実感がある。ただ、本学では、毎年度、自己点検・評価及び改善活動に取り組んでおり、これまでですでに課題に対する改善や成果の伸長への取り組みの実績がある。

(設問 46) 明確になった課題への改善に取り組むようになった。(2022 年度まで(設問 48))

- ・毎年度自己点検・評価を実施し、改善を行っている。また、認証評価の結果、付された提言(改善課題、是正勧告)に基づいた改善を行う定である。
- ・課題として認識していた事項に対し、認証評価という目標に向かって改善に取り組むことができた。

(設問 47) 成果を出している取組みが明確になった。(2022 年度まで(設問 49))

- ・本学の取組みが第三者の目線から客観的に評価されたことにより、自信をもって取り組み、学内外へアピールできるようになった。

(設問 48) 明確になった成果を出している取組みに一層積極的に取り組むようになった。

(2022 年度まで(設問 50))

- ・大学全体の意識として、成果をあげている取組みを向上させるよりも課題に対する改善の意識が強まった。

(設問 49) ステークホルダーに対する説明責任を果たすことができた。(2022 年度まで(設問 51))

- ・ステークホルダーに対するアカウタビリティは認証評価結果の公表だけではないことは承知しているが、大学評価の文書を公開する意義は大きいと感じている。今後ますます情報公開(透明性)の重要性が増すことを踏まえれば、評定結果一覧の公表も重要ではないかと考えており、貴協会においても是非検討をお願いしたい。

・ホームページで公開するだけでは、ステークホルダーに届きづらいと思う。

(設問 50) 外部評価等の客観的な視点を加えるようになった。(2022 年度まで (設問 52))

- ・外部評価の視点を取り入れることを、今後の課題として捉えている。
- ・以前より、本学では外部評価委員会を設置し、自主的・自律的に外部評価を行っていることから、「該当しない」としている。

(設問 51) 貴学が考えるステークホルダーに対し、教育の質が保証できた。(2022 年度まで (設問 53))

- ・現在進行中のため、ステークホルダーに対し、教育の質の保証ができた。とまでは言えない。
- ・教育の質の保証に取り組むきっかけにはなったが、まだまだこれからである。
- ・内部質保証や教育の質の向上は常に念頭に大学運営に努めており、今回の評価により特別に意識が変わったり、改善・向上につながったわけではない。また評価結果は基準に対するデジタルな評価であり、総合的に長所や課題が評価されたとは考えていないため、ステークホルダーに大学の姿が適切に伝わったとは思われない。

(設問 52) 教育の質の向上につながった。(2022 年度まで (設問 54))

- ・本学では内部質保証推進組織の設置が評価申請の 2 年前に整備されたばかりであったため、教育の質向上に向けた支援は始まったばかりの認証評価受審となったが、今後は内部質保証推進組織と全学自己点検・評価組織が連携しながら、教育の質向上に向けた取り組みを推進していきたい。
- ・教育の質の向上に取り組むきっかけにはなった。まだまだこれからである。
- ・大学基準ごとの評価項目・評価視点を意識して内部質保証に取り組んだ結果、3 ポリシーと教育内容・方法との適合性、評価の透明性や客観性を高めることができた。

7) 新型コロナウイルス感染症拡大時の大学評価に対する意見

2020年度～2022年度にかけて、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、評価のスケジュールや実地調査の実施方法等を変更せざるを得なかった。この期間の有効性調査においては、特別に別途に標記に係る意見を自由記述で募ったことから、以下にまとめる。

- ・在宅勤務が導入されたことにより、メールでのやりとりに頼らざるを得ず、電話等で直接質問等ができなかったことについては、やや苦慮した。
- ・2020年4～5月にかけて、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、在宅勤務導入となったが、大学学内サーバーへの外部からのアクセスが制限されていることから、必要資料に思うようにアクセスできず、資料収集対応に苦慮した部分があった。
- ・会場の設営（カメラ・マイクの設置の仕方）、オンライン回線が急に不通になるなどの回線に不具合があった場合の対応
- ・2つのキャンパスに分かれて参加したので、意見交換において学長が参加したAキャンパスが中心となってしまいBキャンパスの参加者が参加しているという感じが弱かった。
- ・実地調査当日に対面参加できない状況になった者がおり、ハイブリッド対応したが、機器の設置・調整など対応に苦慮した。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況を考慮した2022年度の運用は適切であり、事前準備等で大きく困ったことはなかった。
- ・オンライン実施によって、評価委員より要望のあった学内施設（図書館、ラーニングコモンズなど）を動画を用いて詳細に説明することができた。
- ・新型コロナウイルス感染禍によってオンラインでの実地面談に急遽切り替わったことにより、本来、当日閲覧としていた資料の確認方法が曖昧になったと感じた。
- ・オンラインによる実地調査は、準備作業の軽減や時間的な柔軟性など利点もあった。しかしながら、やはり実際にキャンパスをご覧いただくこと、対面でお話をさせていただくことができなかったことにより意図が伝わりにくい面もあり、意見交換や、本学の魅力を感じていただくことが十分にできなかったようにも思われた。
- ・オンラインによる実地調査の場合、双方が画面越しの受け答えになるため、やや緊張した場の雰囲気になってしまう点が難しいと感じた。点検・評価報告書の記述だけでは状況が伝わりにくい面もあったように感じた。
- ・対面の方がコミュニケーションがとりやすいことから実地調査はライブで行っていただくことが望ましいと思った。
- ・本学は出席者が非常に多数であったため、オンラインで対応できたことは有益であった。一方で、対面・オンライン・ハイブリッドでの実施の基準がなく、学内調整や実施方法の判断に時間を要した。

3 まとめ

前項目の有効性調査の結果を踏まえ、本項目では、「内部質保証の促進への寄与」「効果的・効率的な評価に関わる課題」「評価者の資質向上」「第三者評価としての機能の充実」の4点からまとめを行うこととする。

(1) 内部質保証の促進への寄与

第1章にて記述したように、大学評価の目的は、大学の自主的な改善・向上の支援であり、大学評価を受けたことを機に大学としての質保証の動きが高まることにつながることを望ましいといえる。すなわち、各大学の内部質保証がより一層促進することに大学評価が寄与したのかという点で考察する。

有効性調査の「Ⅱ. 大学評価の成果（質の保証・向上）」における各設問への回答を見ると、「内部質保証システムの改善・充実に取り組むことができた」（設問 41）に対して、そう思う及びおおむねそう思うの回答が経年的に多くを占めたことはひとつの成果といえる。また、「課題が明確になった」（設問 45）、「明確になった課題への改善に取り組むようになった」（設問 46）に対しても、そう思うとの回答率が比較的高いことから、第三者による評価を受けたことで大学自らの課題が明らかになり、改善に取り組むことにつながったといえる。

一方で、「成果を出している取組みが明確になった」（設問 47）、「明確になった成果を出している取組みに一層積極的に取り組むようになった」（設問 48）に対しては、おおむねそう思うとの回答率が比較的高いことから、各大学の大学評価への意識が課題の指摘に向けられていることがわかる。また、「将来計画の策定等に役立った」（設問 44）や「ステークホルダーに対する説明責任を果たすことができた」（設問 49）、「貴学が考えるステークホルダーに対し、教育の質が保証できた」（設問 51）に対しては、1割～2割程度の大学が「どちらともいえない」と回答していることから、大学評価及び大学評価結果の活用を積極的に促すことが必要であろう。さらに、将来計画の策定や説明責任の履行に資する大学評価を行っていくことも、本協会としての課題といえる。

このように、大学評価が内部質保証の促進に寄与したとはいえるものの、より実質的な内部質保証につながるためには、各大学の大学評価の目的への理解、大学基準への理解を高めていくことが必要であろう。自由記述のなかには、大学基準の内容が複雑である、評価基準に加えて、点検・評価項目及び評価の視点、評価者の観点のほか、評価に際しての指針があり理解が難しいといった意見も見受けられるため、大学基準の目的及び基準・解説で示す内容への理解を深める取り組みは、今後も必要であろう。

本協会では、評価を申請する大学に対する説明会、本協会の職員が大学等を訪問しての説明、各大学における実質的な自己点検・評価のあり方や内部質保証の機能化に向けた正会員を対象にした勉強会など、多様な取り組みを通じて大学の理解を深めることに取り組んでいる。本協会においては、こうした取り組みを継続しつつ、大学の質を保証する第一義的責

任は大学にあることを大学がより一層理解し、大学自らが質を保証するために必要な自己改善機能や説明責任能力の強化に資する取り組みを講じていくことが必要である。なお、2025年度からの第4期認証評価における大学評価では、大学基準のもとに定めていた点検・評価項目、評価の視点、評価者の観点を整理し、評価項目及び評価の視点としたため、今後、評価を行うなかでこれらの取り組みの有効性を検証し、更なる改善・向上につなげたい。

(2) 効果的・効率的な評価に関わる課題

有効性調査の回答からは、各大学が大学評価の目的・意義を理解し、内部質保証の改善・充実につながったことがわかるものの、申請大学の作業負担に関する面においては、課題といえる。ただし、この点については、単に作業量としての負担のみならず、大学評価で求めている事項に対する難しさが負担感の原因となっていることも考えられるため、効果的な評価に向けて必要な事項と効率化を図ることが可能な事項のバランスを考えて、改善策を検討する必要がある。

例えば、「I. 大学評価の実施プロセス、体制等」の『点検・評価報告書』の記述を裏付ける根拠資料を円滑に提出することができた(設問 11) に対して、年度によるものの、「おおむねそう思う」が6割～7割となり、「そう思う」を大きく上回るとともに、2割弱は「どちらともいえない」を選択し、少数とはいえ「あまりそう思わない」を選択していることは、留意すべき点と考える。一方で、根拠資料を電子データで提出すること及び提出に際しクラウドを利用すること(設問 12a、12b)については、7割～8割が「そう思う」と回答しているため、技術的な側面での対応は十分にできているといえる。

上記の設問 11 の回答を踏まえると、『点検・評価報告書』の記述の根拠となる資料の収集・精査等の準備については、作業量としての負担があると同時に、適した根拠の検討・提出が難しいことが推測できる。自由記述のなかには、根拠資料としてどのようなものが必要なのか、適切なものは何かの判断に苦慮したとの回答もあり、具体例の提示を求める回答もあった。一方で、全般的に資料が膨大でまとまりがなくわかりづらいとの回答もあることから、大学自身が実証的な点検・評価に必要な資料を取捨選択し、自らの取り組みの成果や課題を証明・説明するに適した資料を準備できるよう、支援していくことが必要である。

そのために、例えば、正会員大学・短期大学の教職員を対象に開催している勉強会(スタディー・プログラム)において、取り組みの成果・効果を示すに適したデータの収集・分析方法の検討をテーマにするなど、大学において内部質保証を推進する人材の育成に取り組むことが重要である。

(3) 評価者の資質向上

有効性調査の結果、「I. 大学評価の実施プロセス、体制等」の「評価者が評価に臨む姿勢・態度の適切性について」(設問 20) に対し、「そう思う」の回答が7割程度であることから、現在の評価者選定の方法や評価者研修には一定の成果が見られるといえる。また、各正会員

大学から推薦を受けた評価者は、大学での職務と並行して評価活動を担っており、その作業時間や労力に多大なご尽力に対し、深く感謝申し上げます。

一方で、「評価者と適切に意見交換をすることができた」（設問 21）に対しては、「そう思う」が5割程度で推移しており、「おおむねそう思う」が4割程度で推移している。また、「2日目の全体面談において、大学のさらなる発展のために有益な意見交換を行うことができた」（設問 19）に対しても、ほぼ同様の回答傾向が見られる。こうしたことから、評価者と申請大学の間での意見交換については、各大学の理念・目的の実現に向けて更なる取り組みが必要な事項、昨今の高等教育を取り巻く環境の変化に応じて大学が取り組む必要がある事項など、各大学の質向上及び発展に資する話題がとり上げやすいような環境をつくっていくことが必要である。

例えば、(4)にて後述するように、法令遵守に関わる事項についての確認が実地調査における面談の主となるのではなく、評価対象の大学がどのようなことを考え、どのような事項に重点を置いて戦略的に取り組んでいるのか、その成果等をどのように把握・評価し、改善・向上につなげる仕組みは動いているのか、こうしたPDCAサイクル等が機能することで、どのように向上しているのか、更なる向上にはどのような視点での取り組みが必要かといったことを申請大学と評価者で議論する場として機能させることが重要であろう。そうした観点から、評価者研修のあり方を見直し、評価者が意識すべきポイントや評価資料から読み取るべき事項、評価者として考えることなどをより一層強化し、評価者の資質向上に取り組むことが必要である。

また、本協会ではピアレビューによる評価を重視し、これまでの評価を行っており、このこと自体は重要な視点である。しかし、大学が社会と連携し、社会のニーズにこたえていくことが必要であると言われるなかにあっては、産業界や学生と連携した評価を実施し、より広い視点で第三者評価を行うことも考えていく必要がある。ピアレビューの充実を図るとともに、より広いステークホルダーを巻き込んだ評価の実施に向けて、国内外の質保証の動向を調査しつつ、実践的に取り組んでいく必要があると考える。

なお、評価の遂行にあたっては、事務局スタッフが評価の中で担う役割に応じて、能力強化を図っていくことも重要である。有効性調査の「本協会事務局の対応は、適切であった」（設問 35）において、多い年度では7割弱が「そう思う」と回答しているが、年度によっては半数以下が「そう思う」と回答していることも踏まえ、本協会の事務局スタッフの資質向上にも積極的に取り組む必要がある。評価においては、評価者と申請大学をつなぐコーディネーターのような役割を担うため、高等教育や質保証についての知識、大学基準や評価に関わるツールの正しい理解と説明能力、議論の内容を理解して評価者をサポートする力をより一層養うことが必要であると考えられる。

(4) 第三者評価としての機能の充実

最後に、第三者評価として大学評価が機能するために必要なことについて、考察する。本協会の実施する大学評価は、認証評価制度に則った評価であり、認証評価において法令要件

の遵守状況の確認の役割が課されていることに鑑みれば、法令遵守に関わる事項の確認は重要な視点である。しかし、それのみに終始することはピアレビューによる第三者評価の意義を損なうことであり、上記（3）において述べたように、大学の理念・目的の実現に向けてより一層取り組むべき事項等を第三者の視点から提言することが本来的な評価の役割といえる。

有効性調査の結果、これまでに分析してきたとおり、評価の有効性の観点では、概ね好意的な回答が得られており、大学評価を通じて内部質保証の取り組みが一定程度促進されてきたこともわかった。こうした大学の自主的な努力と第三者からの評価・指摘等を通じて、大学の質向上に資する評価を行うことは、本協会の大学評価の目的と合致する点である。これをより一層促進するためにも、法令要件の遵守状況の確認に終始することなく、それぞれの大学の理念・目的の実現に向けた取り組みの状況や効果、特に学生が卒業・修了までに身につけるべき知識・技能・態度等の学習成果の達成に向けた教育のデザイン・運用・検証・改善のサイクルが機能しているか、それによって教育の質は担保されているかといった点により重点を置いた評価を実施することが必要である。

2025年度から開始した第4期では、点検・評価報告書の様式に基本情報一覧表を入れ込み、法令要件や基本的事項について、公開されている資料や数値的な情報、有無などの情報で判断できるものは表形式に情報をまとめることで、点検・評価報告書の記述量を減らすとともに、大学が重点を置いている事項や効果的な取り組み、これから取り組みたい課題などに文章での説明を充てられるよう工夫を講じた。こうした取り組みの効果を検証し、より一層第三者評価としての機能を発揮できるような評価を実施していきたい。また、第三者評価としての役割を果たしていくためには、それを担う評価者が重要であるため、上記（3）にて述べた評価者の資質向上についても、引き続き取り組んでいきたい。

最後に

本協会は、1947年の創立以来、諸外国の事例を調査研究し、その成果を活かして大学基準を改定しながら評価基準として活用してきた。また、評価方法についても、1996年に大学の自己点検・評価を基盤とする評価の仕組みを開発し、それが認証評価制度の基盤としても活用されてきたことは大きな実績といえる。その後も、認証評価制度に則った評価を行いつつ、本協会の目的及び大学評価の目的を遂行すべく、大学自らが改善・向上する機能の強化に資する評価を目指し、自己点検・評価実質化、内部質保証の構築・機能化に重点を置いた評価を行ってきた。これにより、多くの大学で、全学的に教育等の質を保証する仕組みを確実に機能させ、教育等の充実につなげるよう努めていることは望ましい状況といえる。今後も、本協会はこれまでの実績を踏まえ、わが国の高等教育機関の質保証及び質向上に資する取り組みを展開していきたい。

資料編

「大学評価の有効性に関する調査」実施要領

本協会では、第3期認証評価における大学評価の有効性に関する調査を実施しております。

ご多用の折、誠に恐縮ですが、本アンケート調査にご協力を賜りますようお願いいたします。

記

1. 実施目的

- ・本協会で開催する大学評価が、大学教育の質保証や質の向上にどのような影響を与えたのか、その効果と課題を検証し、大学評価システムの運用改善に繋げる。

2. 回答にあたって

- ① 調査対象：2024年度に本協会の大学評価を受けた大学
- ② 方法：ご担当者様宛にメールにてお送りした回答用紙（様式）に記入し、メール添付にて本協会事務局（kikaku@juaa.or.jp）までお送りください。
- ③ 期 日：2025年5月30日（金）まで

3. その他

- ・本アンケートは、上記調査目的以外に使用することはありません。また、今回の検証結果は公表する予定ですが、貴大学の特定に繋がる形はとりません。

以 上

資料 2 : 「大学評価の有効性に関する調査」 調査項目 (2025 年度)

公益財団法人 大学基準協会
「大学評価の有効性に関する調査」 アンケート
回 答 用 紙

■【該当する番号の選択（「該当個所のクリック」※プルダウンから選択も可）】、【該当内容の記述】をお願いします。
（※未入力の場合は、イエローで表示されます）

大学名を記入し、所在地（都道府県）をプルダウンから選択してください。

大学名	
所在地(都道府県)	

設置者（1:国立大学法人 2:公立大学法人・公立 3:私立 ※株式会社立含む）

設置者: 該当する形態を選択してください

国立 公立 私立

学部・研究科数

※学生募集をしている学部・研究科のみ

該当する数値を▲▼ボタンを使って回答欄に入力してください。

▲▼ 学部 ▲▼ 研究科

収容定員（1:1,000人未満 2:3,000人未満 3:5,000人未満 4:10,000人未満 5:20,000人未満 6:20,000人以上）

※学生募集をしている学部・研究科のみ

※未完成学部・研究科がある場合は、完成年度の数値で算出

収容定員: 該当する人数を選択してください

1,000人未満 3,000人未満 5,000人未満
 10,000人未満 20,000人未満 20,000人以上

■【該当する番号の選択（「該当個所のクリック」※プルダウンから選択も可）】、【該当内容の記述】をお願いします。
（※未入力の場合は、イエローで表示されます）

回答選択肢 1: そう思う 2: おおむねそう思う 3: どちらとも言えない 4: あまりそう思わない 5: そう思わない

I. 大学評価の実施プロセス、体制等

1. 事前準備 ※ 以下の『大学評価ハンドブック』は、2023年11月に改訂した2023(令和5)年度申請用を指し、[一ハンドブックへリンク](#)します。

(1) 本協会の提供する申請準備、基準等の解説動画、オンライン事例報告会は、大学評価の申請準備に役立った。

(1) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(2) 『大学評価ハンドブック』の内容は、大学評価の申請準備に役立った。

(2) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(3) 『大学基準』及びその解説(『大学評価ハンドブック』資料1)の内容は、自己点検・評価を行う基準として適切であった。

(3) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(4) 「点検・評価項目」(『大学評価ハンドブック』資料2)の内容は、自己点検・評価を行う枠組みとして適切であった。

(4) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(5a) 「評価の視点」(『大学評価ハンドブック』資料2)の内容は、「点検・評価項目」に基づき、大学自身の「評価の視点」を定めるための例示として適切であった。

(5) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(5b) 「点検・評価報告書 記述の注意点と根拠資料例(大学評価)」(『大学評価ハンドブック』資料6)は十分に活用することができた。

(5b) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(6) 「提言(長所、改善課題、是正勧告)の定義」(『大学評価ハンドブック』9頁)における各提言の定義は、適切である。

(6) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(7) 「評定(S、A、B、C)基準」(『大学評価ハンドブック』29頁)は、評定を決定するうえで適切である。

(7) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(8) 「評価に係る各種指針」(『大学評価ハンドブック』資料4)の内容は、法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況を判断するための指針として適切である。

(8) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(9) 「判定の基準とその運用指針」(『大学評価ハンドブック』資料3)に示された適合・不適合の考え方は、十分に納得がいくものである。

(9) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(10) 本協会の提示した『大学基礎データ』の様式は、大学の状況を定量的に表すのに適切であった。

(10) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(11) 「点検・評価報告書」の記述を裏付ける根拠資料を円滑に提出することができた。

(11) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(12a) 根拠資料を電子データで提出することは、その提出方法を含め適切であった。

(12a) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(12b) 根拠資料の提出においてクラウド・ストレージを利用することは適切であった。

(12b) 当てはまるものを選択してください
 そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(13) 【自由記述】問(1)～(12b)について、回答の理由として特記することがあれば記述してください。

※問〇について～など、対応項目が分かるように記述してください。(文字数に制限はありません。)

2. 実地調査

(14) 実施時期(実施時期の決定方法を含む)は、適切であった。

(14) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(15a) 日数(2日間)は、適切であった。

(15a) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(15b) オンライン併用による実施は適当であった(全対面式だったが、オンラインも併用できるのは適当だと思う)。

(15b) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(16) プログラム構成(全体面談、個別面談、学生インタビュー等)は、適切であった。

(16) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(17) 各プログラムの時間配分は、適切であった。

(17) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(18) 1日目の全体面談において設けられた学長によるプレゼンテーションにより、大学の内部買保証に対する姿勢を提示することができた。

(18) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(19) 2日目の全体面談において、大学のさらなる発展のために有益な意見交換を行うことができた。

(19) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(20) 評価者の姿勢・態度は、適切であった。

(20) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(21) 評価者と適切に意見交換をすることができた。

(21) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(22a) 【自由記述】評価結果(分科会案)への見解の提示、質問事項への回答において、対応しやすかったこと・しにくかったこと、十分にできた・できなかったことなど、特に述べておきたいことがあれば記述してください。

※(文字数に制限はありません。)

(22b) 【自由記述】その他問(14)～(21)について、回答の理由として特記することがあれば記述してください。

※「問〇について～」など、対応項目が分かるように記述してください。(文字数に制限はありません。)

3. 意見申立制度

(23) 意見申立の対象となる事項等や制度は、適切である。

(23) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(24) 【意見申立をした大学のみ】意見申立に対する本協会の対応は、適切であった。

(24) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(25) 【自由記述】問(23)、(24)について、回答の理由として特記することがあれば記述してください。

※「問〇について～」など、対応項目が分かるように記述してください。(文字数に制限はありません。)

4. 異議申立制度

(26) 【異議申立をした大学のみ】制度の仕組みは、適切である。

(26) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(27) 【異議申立をした大学のみ】異議申立に対する本協会の対応は、適切であった。

(27) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(28) 【異議申立をした大学のみ】【自由記述】

問(26)、(27)について、回答の理由として特記することがあれば記述してください。

※「問〇について～」など、対応項目が分かるように記述してください。(文字数に制限はありません。)

5. 大学評価結果

(29) 内容は、理解しやすかった。

(29) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(30) 貴大学の取組みを適切に捉えていた。

(30) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(31) 提言(長所)は、貴大学の長所を適切に捉えていた。

(31) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(32) 提言(改善課題・是正勧告)は、貴大学の課題を適切に捉えていた。

(32) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(33) 【自由記述】問(29)～(32)について、回答の理由として特記することがあれば記述してください。

※「問〇について～」など、対応項目が分かるように記述してください。(文字数に制限はありません。)

6. 全般的事項

(34) 貴大学側の作業量は、適切であった。

(34) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(35) 本協会事務局の対応は、適切であった。

(35) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(36) 評価者の構成は、適切であった。

(36) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(37) 本協会のフォローアップ(改善報告等)の仕組みは、十分である。

(37) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(38) 本協会の設定する大学評価の実施方法及びスケジュール等は、適切であった。

(38) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

(39) 【自由記述】問(34)～(38)について、回答の理由として特記することがあれば記述してください。

※「問〇について～」など、対応項目が分かるように記述してください。(文字数に制限はありません。)

II. 大学評価前の自己点検・評価による効果

〔40〕 自己点検・評価活動の実施意義が教職員に浸透した。

(40) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔41〕 内部質保証システムの改善・充実に取り組むことができた。

(41) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔42〕 内部質保証に関する教職員の理解が深まった。

(42) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔43〕 貴大学の諸活動に対する学内連携や情報共有が促進された。

(43) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔44〕 将来計画の策定等に役立った。

(44) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔45〕 課題が明確になった。

(45) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔46〕 明確になった課題への改善に取り組むようになった。

(46) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔47〕 成果を出している取組みが明確になった。

(47) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔48〕 明確になった成果を出している取組みに一層積極的に取り組むようになった。

(48) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔49〕 ステークホルダーに対する説明責任を果たすことができた。

(49) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔50〕 外部評価等の客観的な視点を加えるようになった。

(50) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔51〕 貴大学が考えるステークホルダーに対し、教育の質が保証できた。

(51) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔52〕 教育の質の向上につながった。

(52) 当てはまるものを選択してください

そう思う おおむねそう思う どちらとも言えない あまりそう思わない そう思わない

〔53〕 【自由記述】問(40)～(52)について、回答の理由として特記することがあれば記述してください。

※「問〇について～」など、対応項目が分かるように記述してください。(文字数に制限はありません。)

Ⅲ. 意見・要望

- 〔54〕 本協会が実施する大学評価全般について、意見・要望等がございましたら、記述してください。
(文字数に制限はありません。)

ご協力ありがとうございました。
2025年5月30日(金)までに、大学基準協会あて(kikaku@juaa.or.jp)に送信していただきますようお願いいたします。
なお、担当者が大学評価時から変更になる際は、上記アドレスあてに新しい担当者の方のご連絡先をお知らせください。

以 上